

静岡県立大学短期大学部  
研究紀要 23-W 号(2009 年度)－3

## 歯科衛生学科卒業生の労働環境についての研究（その 2）

—平成 21 年度キャリア支援委員会実施実態調査より—

### A Study of Labor Circumstances of Graduates of Department of Dental Hygiene

鈴木 温子

SUZUKI Atsuko

#### 【緒言】

歯科衛生士業務が確実に国民の QOL を高める上に欠かせない存在となりつつある昨今、歯科衛生士の働く現状を把握しておく必要があると考え、平成 16 年度に行なった第 1 回調査に引き続き、今回は第 2 回目の調査を行なった。歯科衛生士は現在でもそのほとんどを女性が占めており、様々な問題を持ちながらも家庭との両立を果たしている者もわずかながら見られるようにはなったが、結婚・出産・育児をしながらその資格を放棄することなく一生仕事を続けていくことがまだまだ難しいというのが実情である。本研究では、本学歯科衛生学科卒業生の労働実態を明らかにし、他職種のそれとの比較等を通して歯科衛生士の労働環境のあり方を考察し、就業現場に対する提言材料としていきたいと考える。

今回は、キャリア支援委員会における卒業生および在校生へのキャリア支援の一環としても、全学科卒業生に対して歯科衛生学科と同一項目において調査を行なったので併せて報告する。

#### 【対象および方法】

1. 調査期間：平成 21 年 3 月 5 日～3 月 23 日
2. 調査方法：郵送配布、郵送回収
3. 調査対象：平成 10 年度、15 年度、17 年度の静岡県立大学短期大学部卒業生 608 人
4. 調査内容：
  1. 回答者の属性
  2. 就業状況
  3. 勤務先の労働条件・福利厚生
  4. 職場環境・職務
  5. 職歴
  6. 公開講座
  7. その他

5. 有効回答数：配布数 608 人、回収数 165 人、回収率 27.1%

## 【結果】

### 1. 回答者の属性について

回答者の年齢は、「24 歳以下」が 35.2%と最も高く、次いで「30～34 歳」(31.5%)、「25～29 歳」(27.9%)となっており、平均年齢は 27.13 歳である。歯科衛生学科では「24 歳以下」が 45.2%と高く、平均年齢も 25.80 歳と低い。給与・待遇の満足度別にみると、平均年齢は不満派で 26.44 歳、満足派は 27.04 歳で、不満派は満足派にくらべて平均年齢がやや低く、「24 歳以下」が 43.5%を占めている。職場での位置づけについての満足度別にみると、給与・待遇の満足度別にみられるほどの差はみられない。歯科衛生学科に限って満足度別にみると、給与・待遇の満足度別（不満派 24.22 歳、満足派 26.11 歳）、職場での位置づけについての満足度別（不満派 23.00 歳、満足派 25.91 歳）ともに不満派のほうが平均年齢が低いという結果になっている。（図表 1）

回答者の配偶者の有無は、「いない」が 63.0%と目立って高くなっている。特に歯科衛生学科では、「いない」が 77.4%と高い。給与・待遇の満足度別にみると、満足派に比べ不満派で「いない」が高くなっている（満足派 71.8%、不満派 77.4%）。職場での位置づけに対する満足度別ではあまり大きな違いはみられない。（図表 2）

回答者の子どもの有無は、「いない」が 69.7%と目立って高くなっている。特に歯科衛生学科では「いない」が 83.9%を占めている。給与・待遇の満足度別、職場での位置づけに対する満足度別にみてもあまり大きな違いはみられない。介護対象者の有無は、「いない」が 87.9%と目立って高くなっている。特に歯科衛生学科では 93.5%を占めている。（図表 3）

回答者の本学を選んだ主な理由は、「希望する学科（研究内容）があった」が 52.1%と過半数を占めて最も高く、次いで「授業料が安いから」(38.2%)、「地元の大学だから」(29.1%)となっている。歯科衛生学科についても傾向は全体と同じであるといえる。「希望する学科（研究内容）があった」が 58.1%と特に高く、また、「自分の学力に合っていた」22.6%、「免許・資格取得者の実績がある」19.4%、「施設、設備等の環境が充実しているから」9.7%が全体と比べて高くなっている。（図表 4）

また、本学で得たものは、「資格・免許」が 86.7%と最も高く、以下「専門的な知識・技術」(77.0%)、「友人・仲間」(70.3%)までが突出して高くなっている。歯科衛生学科についても傾向は全体と同じであるといえる。「専門的な知識・技術」が 90.3%と全体の 77.0%に比べて高くなっている。（図表 5）

在学中に習得しておけばよかったと思うものは、「パソコン技能」が 37.0%と最も高く、次いで「語学力」(29.7%)、「幅広い知識・教養」(29.1%)、「表現力・プレゼンテーション能力」(28.5%)となっている。歯科衛生学科についてみると、「パソコン技能」が 38.7%ともっと高く、全体の 37.0%を上回っている。次いで「幅広い知識・教養」(25.8%)、「語学力」(22.6%)と続いているが、全体と比べて回答率が低く、「特にない」が 12.9%と全体の 9.1%に比べて高くなっている。（図表 6）

今後、本学に期待することは、「医療・福祉の充実に貢献する人材の養成」が 86.1%

と最も高く、次いで「地域（静岡県など）に貢献する人材の養成」が 64.2%と続いている。歯科衛生学科についても、「医療・福祉の充実に貢献する人材の養成」が 77.4%と最も高く、次いで「地域（静岡県など）に貢献する人材の養成」が 51.6%と続き、全体と同様の傾向となっている。（図表 7）

本学に期待することのうち、最も期待することは、「医療・福祉の充実に貢献する人材の養成」が 52.7%と過半数を占めて最も高くなっている。歯科衛生学科についてみると、全体と同様、「医療・福祉の充実に貢献する人材の養成」が 51.6%と過半数を占めて最も高くなっているが、「地域（静岡県など）に貢献する人材の養成」は 9.7%と全体の 20.0%と比べて低くなっている。（図表 8）

本学以外の最終学歴は、「ある」が 19.4%と約 2 割を占めている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は 3.2%（1 人）に過ぎない。（図表 9）

今後の専門学校等への入学（再入学）の意向は、「入学する気はない」が 47.3%と最も高く、次いで「費用など条件が整えば入学したい」（37.6%）となっている。歯科衛生学科についてみると、「入学する気はない」が 58.1%と約 6 割を占めている。「費用など条件が整えば入学したい」も 19.4%と全体の 37.6%と比べて低くなっており、全体と比べて入学意向は低いといえる。（図表 10）

## 2. 就業状況について

回答者の現在の就業状況は、「はい」が 80.6%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「はい」は 87.1%とさらに高くなっている。働いている人の現在の就業形態は、「フルタイム勤務」が 94.7%となっている。歯科衛生学科についてみると、「フルタイム勤務以外」が 7.4%と全体の 5.3%に比べてやや高くなっている。（図表 11）

フルタイム勤務の人の、現在の職場における勤務年数は、「3 年以上 4 年未満」が 17.5%と最も高く、次いで「2 年以上 3 年未満」、「4 年以上 5 年未満」（いずれも 16.7%）となっている。歯科衛生学科についてみると、「3 年以上 4 年未満」が 24.0%と最も高く、次いで「2 年以上 3 年未満」が 20.0%、「5 年以上 6 年未満」が 16.0%となっている。1 週あたりの勤務日数は、「5 日」が 70.6%と目立って高く、次いで「5.5 日」（12.7%）となっている。歯科衛生学科についてみると、「5 日」が 80.0%とさらに高く、「4.5 日」が 8.0%、「6 日」が 4.0%となっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「5.5 日」が 16.4%と満足派の 9.2%と比べて高くなっている。（図表 12）

1 日あたりの勤務時間は、「8 時間以上 10 時間未満」が 50.8%と過半数を占めて最も高く、次いで「8 時間」（30.2%）となっている。歯科衛生学科についてみると、「8 時間以上 10 時間未満」が 72.0%と全体の 50.8%と比べて高くなっている。「8 時間」は 16.0%（全体 30.2%）、「10 時間以上」は 4.0%（9.5%）と全体と比べて低くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「10 時間以上」が 13.1%と全体の 6.2%と比べて高くなっている。歯科衛生学科について給与・待遇の満足度別にみても、不満派では「10 時間以上」が 11.1%（2 人）いる（満足派 0.0%）。また、不満派では「4 時間以上 8 時間未満」と回答した人はいなかった（満足派 12.5%）。

(図表 13)

勤務先の経営形態をみると、「社会福祉施設：社公益法人（財団法人・社会福祉法人等）」29.3%、「病院：公的医療機関」22.6%などが高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「診療所：個人」が64.0%と高く、次いで「診療所：医療法人」が28.0%となっており、診療所が92.0%と高い割合となっている。（図表 14）

### 3. 勤務先の労働条件・福利厚生について

勤務先の就業規則の有無は、「ある」が85.7%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は70.4%と全体に比べて低く、「わからない」が29.6%と約3割を占めている。給与・待遇の満足度別にみてもあまり大きな違いはみられない。（図表 15）

有給休暇の有無は、「ある」が93.2%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は77.8%と全体に比べて低く、「ない」が18.5%を占めている。年間支給日数は、「15～20日」が27.4%と最も高く、次いで「10～14日」が21.7%となっている。歯科衛生学科についてみると、「10～14日」が42.9%と最も高く、「10日未満」が28.6%と続いている。平均支給日数をみても、全体の17.66日に対して、歯科衛生学科は10.19日と少ない。給与・待遇の満足度別にみると、「ない」は不満派（4.8%）より満足派（7.0%）で高くなっている。しかし、平均支給日数でみると、満足派の20.0日に対して、不満派では15.65日と少ない。歯科衛生学科について給与・待遇の満足度別にみると、「ない」は不満派で22.2%と、満足派の16.7%より高い割合となっている。平均支給日数は、満足派の11.00日に対して、不満派では7.75日と少ない。

有給休暇の取得しやすさは、「ほぼ取れる」が43.5%と最も高く、次いで「取れない」が37.1%となっている。「取れる」（17.7%）と「ほぼ取れる」を合わせて6割以上が取れると回答している。歯科衛生学科についてみると、「ほぼ取れる」が57.1%と半数を超え、「取れない」は19.0%と全体と比べて低くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、「取れない」は不満派で45.8%と満足派の29.2%と比べて高くなっている。（図表 16）

特別休暇の有無は、「ある」が88.0%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は70.4%と全体に比べて低く、「ない」が25.9%を占めている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派で「ない」が11.3%と満足派の9.9%に比べてやや高いものの大きな違いはみられない。特別休暇の種類は、「産休」が76.1%と最も高く、以下「育休」（70.1%）、「夏期休」（69.2%）までが6割以上の回答となっている。歯科衛生学科についてみると、「年末年始」が100.0%、「夏期休」が94.7%と非常に高く、「産休」（26.3%）、「育休」（15.8%）、「結婚」（15.8%）、「介護休」（0.0%）は全体と比べて非常に低い割合となっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では満足派に比べて、「年末年始」49.1%（満足派61.3%）、「夏期休」56.4%（満足派80.6%）などが低くなっている。歯科衛生学科について給与・待遇の満足度別にみると、不満派では満足派に比べて、「夏期休」85.7%（満

足派 100.0%)、「産休」14.3%（満足派 33.3%）などが低くなっている。（図表 17）

特別休暇の取得しやすさは、「ほぼ取れる」が 61.5%と最も高く、「取れる」(26.5%)と合わせて約 9 割が取れると回答している。歯科衛生学科についてみると、「取れる」は 15.8%と全体の 26.5%に比べて低く、「取れない」は 21.1%と全体の 11.1%に比べて高くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「取れない」が 18.2%と満足派の 4.8%に比べて高くなっている。（図表 18、19）

残業制度の有無は、「ある」が 69.9%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は 63.0%と全体に比べてやや低くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、あまり大きな違いはみられない。（図表 20）

給与の形態は、「月給」が 91.7%と突出して高くなっている。歯科衛生学科についてみても、「月給」が 85.2%と高くなっている。給与・待遇の満足度別にみても、あまり大きな違いはみられない。諸手当の有無は、「ある」が 97.0%とほとんどとなっている。歯科衛生学科についてみても、「ある」が 96.3%を占めている。給与・待遇の満足度別にみても、あまり大きな違いはみられない。（図表 21）

諸手当の種類は、「通勤手当」が 95.3%と最も高く、次いで「時間外手当」(80.6%)、「資格手当」(52.7%)となっている。歯科衛生学科についてみると、「資格手当」が 84.6%（全体 52.7%）、「皆勤手当」が 53.8%（全体 15.5%）と高くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「通勤手当」が 91.8%と満足派の 98.5%と比べてやや低くなっている。「時間外手当」（満足派 76.5%、不満派 85.2%）、「資格手当」（満足派 48.5%、不満派 57.4%）は、不満派に比べて満足派で低い割合となっている。歯科衛生学科について給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「資格手当」が 66.7%と満足派の 94.1%に比べて低くなっているが、「通勤手当」「時間外手当」「皆勤手当」については不満派より満足派で低くなっている。（図表 22）

退職金制度の有無は、「ある」が 82.7%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は 70.4%と全体と比べて低く、「ない」が 25.9%と 4 分の 1 以上となっている。給与・待遇の満足度別にみると、満足派で「ない」が 15.5%とやや高いが、あまり大きな違いはみられない。歯科衛生学科について給与・待遇の満足度別にみると、満足派で「ある」が 66.7%と不満派の 77.8%に比べて低くなっている。（図表 23）

健康保険の加入の有無は、「被保険者の本人となっている」が 94.7%と目立って高くなっている。また、「被保険者の扶養家族になっている」が 4.5%となっており、「加入していない」は皆無となっている。歯科衛生学科についてみると、「被保険者の扶養家族になっている」が 7.4%とやや高いものの、全体と大きな違いはみられない。給与・待遇の満足度別にみると、満足派で「被保険者の扶養家族になっている」が 7.0%と不満派の 1.5%と比べてやや高くなっている。

健康保険の種類は、「共済組合保険」が 25.4%と最も高く、次いで「国民健康保険（勤務先負担有）」(21.4%)、「歯科医師国保」(16.7%)、「政府管掌保険」(15.9%)となっている。歯科衛生学科についてみると、「歯科医師国保」が 76.0%と突出している。給与・待遇の満足度別にみると、満足派では「歯科医師国保」が 21.5%と高く、不満派では「国民健康保険（勤務先負担有）」24.6%、「政府管掌保険」19.7%、

「組合保険」16.4%が高くなっている。(図表 24)

年金の加入の有無は、「本人が年金制度に加入」が95.5%とほとんどで、「配偶者の年金制度に加入」(3.8%)と合わせ、ほぼすべての人が加入しており、「加入していない」は皆無となっている。歯科衛生学科についてみても、大きな違いはみられない。給与・待遇の満足度別にみても、大きな違いはみられない。

年金の種類は、「厚生年金」が57.5%と過半数を占めて最も高く、次いで「共済年金」(24.4%)、「国民年金(勤務先負担無)」(12.6%)となっている。歯科衛生学科についてみると、「国民年金(勤務先の負担無)」が53.8%と半数以上を占めている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派で「厚生年金」が70.0%と高い割合となっている。歯科衛生学科について給与・待遇の満足度別にみると、満足派では「国民年金(勤務先の負担無)」が58.8%、不満派では「厚生年金」が55.6%と高くなっている。(図表 25、26)

失業保険の加入の有無は、「加入している」が50.4%と約半数で、「加入していない」は21.1%となっている。歯科衛生学科についてみると、「加入している」が59.3%、「加入していない」が7.4%となっている。また、「わからない」が29.6%と約3割を占めている。給与・待遇の満足度別にみると、満足派では「加入していない」が29.6%、不満派では「加入している」が58.1%と高くなっている。

労災保険の加入の有無は、「加入している」が55.6%と過半数を占めており、「加入していない」は14.3%となっている。歯科衛生学科についてみると、「加入している」が44.4%、「加入していない」が22.2%となっている。また、「わからない」が29.6%と約3割を占めている。給与・待遇の満足度別にみると、満足派では「加入していない」が16.9%、不満派では「わからない」が32.3%とやや高くなっている。(図表 27)

定期健診制度の有無は、「ある」が92.5%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は74.1%と全体に比べて低く、「ない(何もしていない)」が14.8%と高くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、あまり大きな違いはみられない。

B型肝炎の抗体検査の受診の有無は、「検査していない」が48.9%と最も高く、次いで「全額勤務先負担で検査している」(39.1%)となっている。歯科衛生学科についてみると、「検査していない」が40.7%、「全額勤務先負担で検査している」が33.3%と全体に比べて低く、「一部自己負担で検査している」が14.8%、「全額自己負担で検査している」が7.4%と高くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では満足派に比べて「検査していない」(50.0%)、「全額自己負担で検査している」(6.5%)がやや高くなっている。(図表 28)

#### 4. 職場環境・職務について

職場環境・職務について給与・待遇に対する満足度は、「満足」(11.3%)と「ある程度満足」(42.1%)を合わせて満足派が53.4%、「不満」(34.6%)と「非常に不満」(12.0%)を合わせて不満派が46.6%と満足派が不満派を上回っている。歯科衛生学科についてみると、全体に比べて満足派の割合が高くなっている(満足

18.5%、ある程度満足 48.1%で合わせて 66.6%)。

職場での位置づけ（身分等）に対する満足度は、「ある程度満足」が 63.2%と目立って高く、「満足」（20.3%）と合わせて満足派は 83.5%を占めている。一方、「不満」（14.3%）と「非常に不満」（2.3%）を合わせた不満派は 16.5%となっており、満足派が不満派を大きく上回っている。歯科衛生学科についてみると、「満足」が 25.9%と全体に比べてやや高いが、あまり大きな違いはみられない。給与・待遇の満足度別にみると、給与・待遇について満足派では、職場での位置づけについても満足に感じている人が多いといえる（97.2%）。(図表 29)

現在の仕事に自分の有する専門性が活かされているかについては、「ある程度活かされている」が 44.4%と最も高く、「活かされている」（33.8%）と合わせた“活かされている”は 78.2%となっている。一方、「あまり活かされていない」（11.3%）と「活かされていない」（9.8%）を合わせた“活かされていない”は 21.1%となっている。歯科衛生学科についてみると、「活かされている」が 44.4%と最も高く、「ある程度活かされている」（37.0%）と合わせた 81.4%が“活かされている”と回答している。全体と比べて“活かされている”と感じているといえる。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では「活かされている」が 9.1%と 1 割に満たない。“活かされている”は 63.6%と低く、“活かされていない”が 36.3%と 3 分の 1 以上となっている。(図表 30)

専門職について理解されているかについては、「ある程度理解されている」が 54.8%と過半数を占めて最も高く、「理解されている」（30.8%）と合わせ、“理解されている”は 85.6%となっている。一方、「あまり理解されていない」（13.5%）と「理解されていない」（1.0%）を合わせた“理解されていない”は 14.4%となっている。歯科衛生学科についてみると、「理解されていない」は 4.5%にとどまり、95.4%が“理解されている”と回答している。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では「あまり理解されていない」が 42.9%と高い割合となっている。(図表 31)

職務上悩んでいる事柄は、「人間関係」、「自己の力量不足」、「過労・健康不安」がいずれも 33.8%と最も高く、次いで「低賃金」（31.6%）となっており、この 4 項目は、目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみると、「人間関係」33.3%、「自己の力量不足」25.9%に次いで「特にない」が 22.2%と高い。「過労・健康不安」11.1%、「低賃金」18.5%は全体に比べてかなり低くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、満足派では「自己の力量不足」（45.1%）、不満派では「低賃金」（53.2%）、「過労・健康不安」（43.5%）が高い割合となっている。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では満足派に比べて「人間関係」（45.5%）、「低賃金」（45.5%）、「職場での位置づけ」（18.2%）で高い割合となっている。(図表 32)

## 5. 職歴について

勤務先を変った経験は、「ない」が 58.8%と過半数を占めて最も高くなっており、変わった経験としては「1 回ある」が 16.4%と最も高く、「2 回ある」（7.9%）、

「3回ある」(4.2%)、「4回以上ある」(1.8%)を合わせて“転職経験がある”は30.3%となっている。歯科衛生学科についてみると、「1回ある」が19.4%、「2回ある」が9.7%と全体に比べてやや高く、“転職経験がある”は32.3%となっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「ない」が62.9%と高くなっている。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では「4回以上ある」が13.6%(3人)と高く、“転職経験がある”が36.3%を占めている。(図表33)

転職先の分野は、「本専門職分野」が74.0%と目立って高くなっている。歯科衛生学科についてみても「本専門職分野」が80.0%(8人)と高くなっている。転職理由は、「職場の人間関係」が18.0%と最も高く、以下「結婚」(16.0%)、「他職種への興味」(14.0%)、「仕事内容への不満」、「仕事内容のレベルアップのため」(いずれも12.0%)までが1割を超える回答となっている。歯科衛生学科についてみると、「職場の人間関係」が50.0%(5人)と突出している。給与・待遇の満足度別にみると、満足派では「職場の人間関係」(23.8%)、「仕事内容への不満」(19.0%)、「出産・育児」(14.3%)が、不満派では「仕事内容のレベルアップのため」(21.1%)、「他職種への興味」(15.8%)が高くなっている。「給与・待遇の面」は5.3%に過ぎない。職場での位置づけに対する満足度別にみると、満足派では「職場の人間関係」(25.0%)、「仕事内容への不満」(15.6%)が、不満派では「他職種への興味」、「家庭の事情」(それぞれ25.0%(2人))が高くなっている。(図表34、35)

再就職・転職活動の際、経験した卒業生から得たい情報は、「就職活動方法」が36.4%と最も高く、次いで「経験者からの助言」(33.9%)、「勤務体系(労働条件含む)」(29.7%)、「再就職時・転職時の収入」(28.5%)となっている。歯科衛生学科についてみると、「経験者からの助言」35.5%、「就職活動方法」32.3%、「勤務体系(労働条件含む)」29.7%に次いで「再就職・転職の動機」「再就職時の子供の年齢・人数」(それぞれ29.0%)が高くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「再就職時・転職時の収入」が32.3%と高くなっている。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では「勤務体系(労働条件含む)」が36.4%と高くなっている。(図表36、37)

転職・再就職のためのキャリア支援をするシステムの活用意向は、「はい」が55.2%と過半数を占めて高く、「いいえ」(3.6%)を大きく上回っている。歯科衛生学科についてみると、「はい」は51.6%と全体に比べてやや低くなっている。給与・待遇の満足度別にみてもあまり大きな違いはみられない。職場での位置づけに対する満足度別にみてもあまり大きな違いはみられない。

転職・再就職のために希望する支援は、「雇用・求人情報の提供、閲覧」が84.6%と最も高く、次いで「転職・再就職のための相談」(56.0%)、「離職によるハンディキャップ解消、キャリア再生のための支援講座」(44.0%)となっている。歯科衛生学科についてみると、全体に比べて「離職によるハンディキャップ解消、キャリア再生のための支援講座」が50.0%とやや高く、「転職・再就職のための相談」が31.3%と低くなっている。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では「雇用・求人情報の提供、閲覧」が97.0%と非常に高くなっている。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では「転職・再就職のための相談」が90.9%、「離職による

ハンディキャップ解消、キャリア再生のための支援講座」が 63.6%と高くなっている。(図表 38, 39)

## 6. 公開講座について

大学などが社会人を対象に行っている公開講座の受講経験は、「ない」が 89.1%と目立って高く、「ある」は 10.3%にとどまっている。歯科衛生学科についてみると、「ある」は 3.2%（1人）に過ぎない。受講経験のない人の今後の受講意向は、「今後受講する予定がある」は皆無だが、「興味がある内容・役立つ内容のものがあれば受講したい」（53.1%）、「受講したいが、費用や時間などの問題でできない」（15.6%）を合わせると、約 7 割が受講意向を持っている。歯科衛生学科についてみると、「興味がある内容・役立つ内容のものがあれば受講したい」は 58.6%と全体に比べて高いものの、「受講する気はない」が 13.8%と高くなっている。(図表 40)

リカレント教育や生涯学習の支援として実施してほしい内容は、「現専門職のスキルアップをサポートするキャリアアップ系講座」が 66.1%と最も高く、以下「働く女性、子育てとの両立を考える女性をサポートする法律系講座」（44.8%）、「パソコンなどの情報系講座」（35.2%）、「ケアマネージャーを目指す人をサポートする実務系講座」（33.3%）までが 3 割を超える回答となっている。歯科衛生学科についてみると、大まかな傾向は全体と変わらない。「現専門職のスキルアップをサポートするキャリアアップ系講座」が 77.4%と全体と比べてさらに高く、次いで「パソコンなどの情報系講座」41.9%、「働く女性、子育てとの両立を考える女性をサポートする法律系講座」35.5%と続いている。(図表 41)

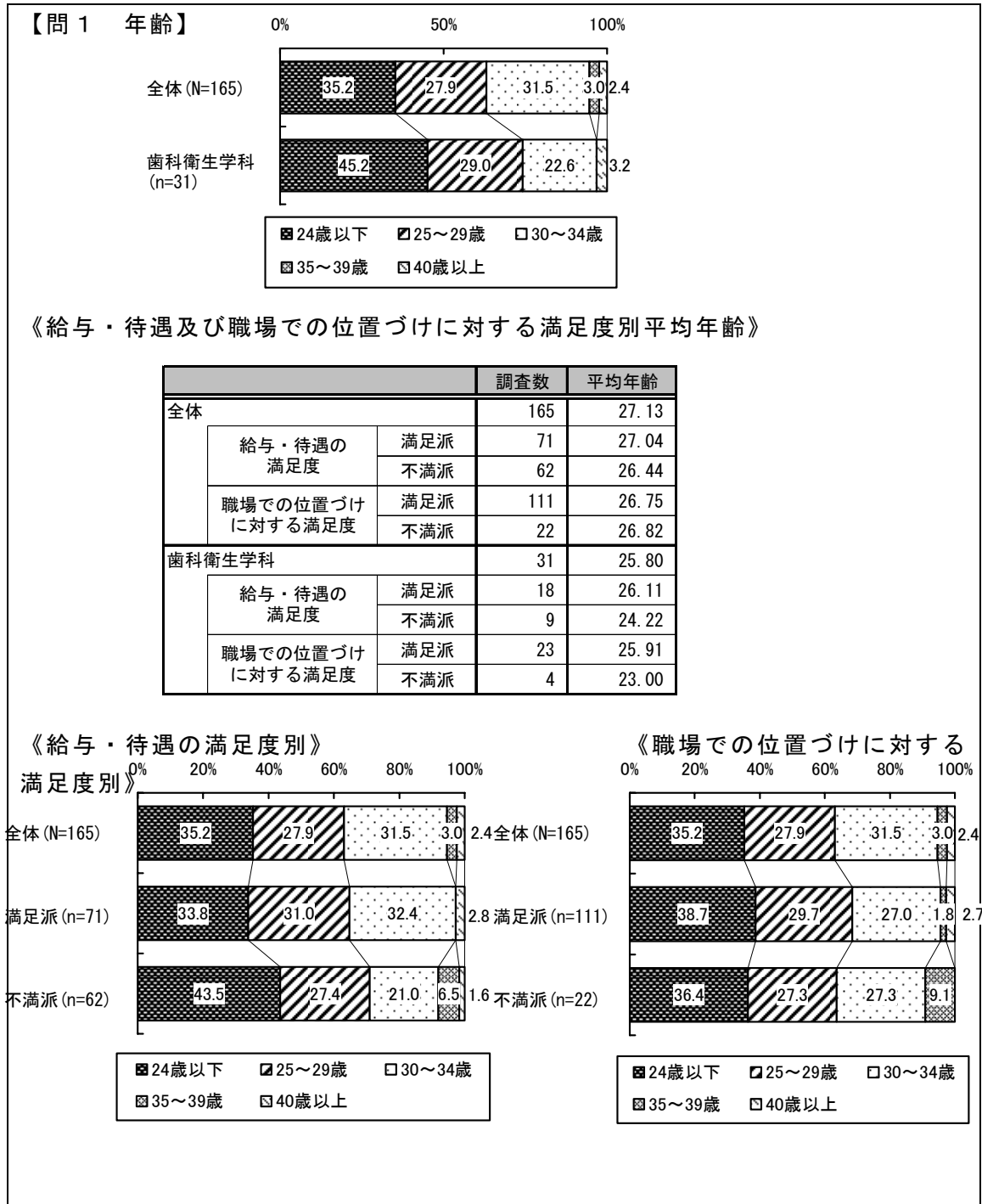
## 7. その他

卒業生同士のコミュニティの必要性は、「はい」が 57.6%と、「いいえ」（3.6%）を大きく上回っている。歯科衛生学科についてみても、同様の結果となっている（「はい」58.1%、「いいえ」3.2%）。給与・待遇の満足度別にみても、大きな違いはみられない。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では満足派に比べて「はい」は 50.0%とやや低く、「いいえ」が 9.1%とやや高くなっている。(図表 42)

コミュニティに期待するものは、「相談機能（仕事・育児・転職・再就職など）」が 77.9%と目立って高く、次いで「人脈の構築」（45.3%）、「同窓会などの活性化」（26.3%）となっている。歯科衛生学科についてみると、全体と同様の順番となっている。特に「相談機能（仕事・育児・転職・再就職など）」が 83.3%と高い。しかし、「人脈の構築」（27.8%）、「同窓会などの活性化」（11.1%）は全体と比べると期待されていない。給与・待遇の満足度別にみると、不満派では満足派と比べて「人脈の構築」が 54.1%とやや高くなっている。職場での位置づけに対する満足度別にみると、不満派では満足派と比べて「人脈の構築」（54.4%）、「同窓会などの活性化」（45.5%）でやや高くなっている。(図表 43)

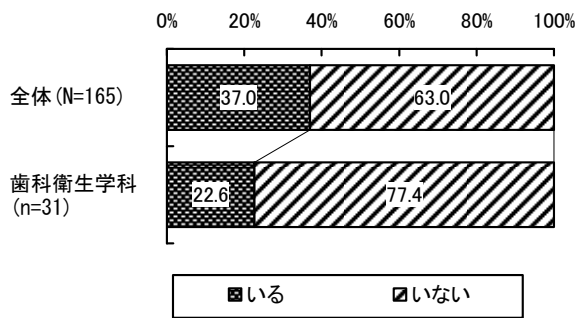
ボランティア活動の有無は、「活動していない」が 92.7%と目立って高く、「活動している」（5.5%）を大きく上回っている。歯科衛生学科についてみると、「活動している」は 3.2%（1人）と非常に低い。今後のボランティア活動意向は、「はい」

が 41.2%と「いいえ」(30.9%)を上回っている。歯科衛生学科についてみると、「はい」が 22.6%、「いいえ」が 48.4%で、「いいえ」が「はい」の 2 倍以上となっている。(図表 44)

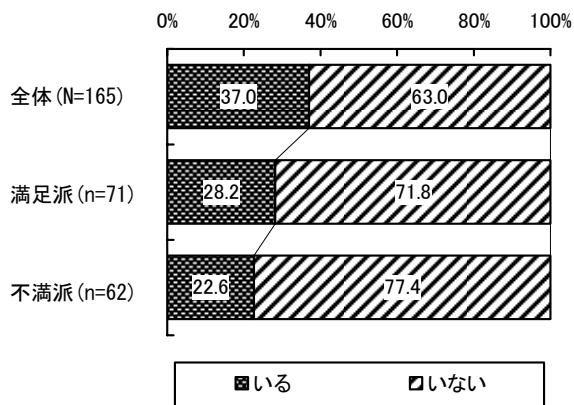


図表 1

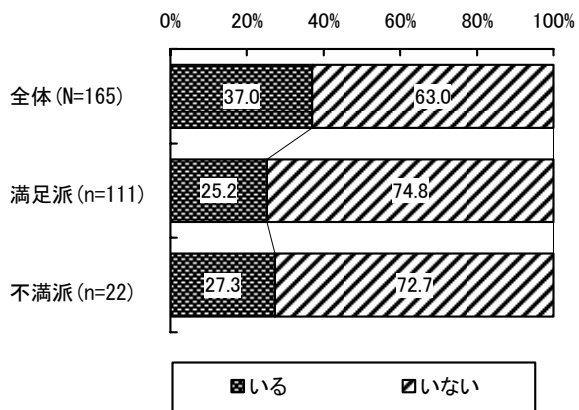
### 【問 2 配偶者の有無】



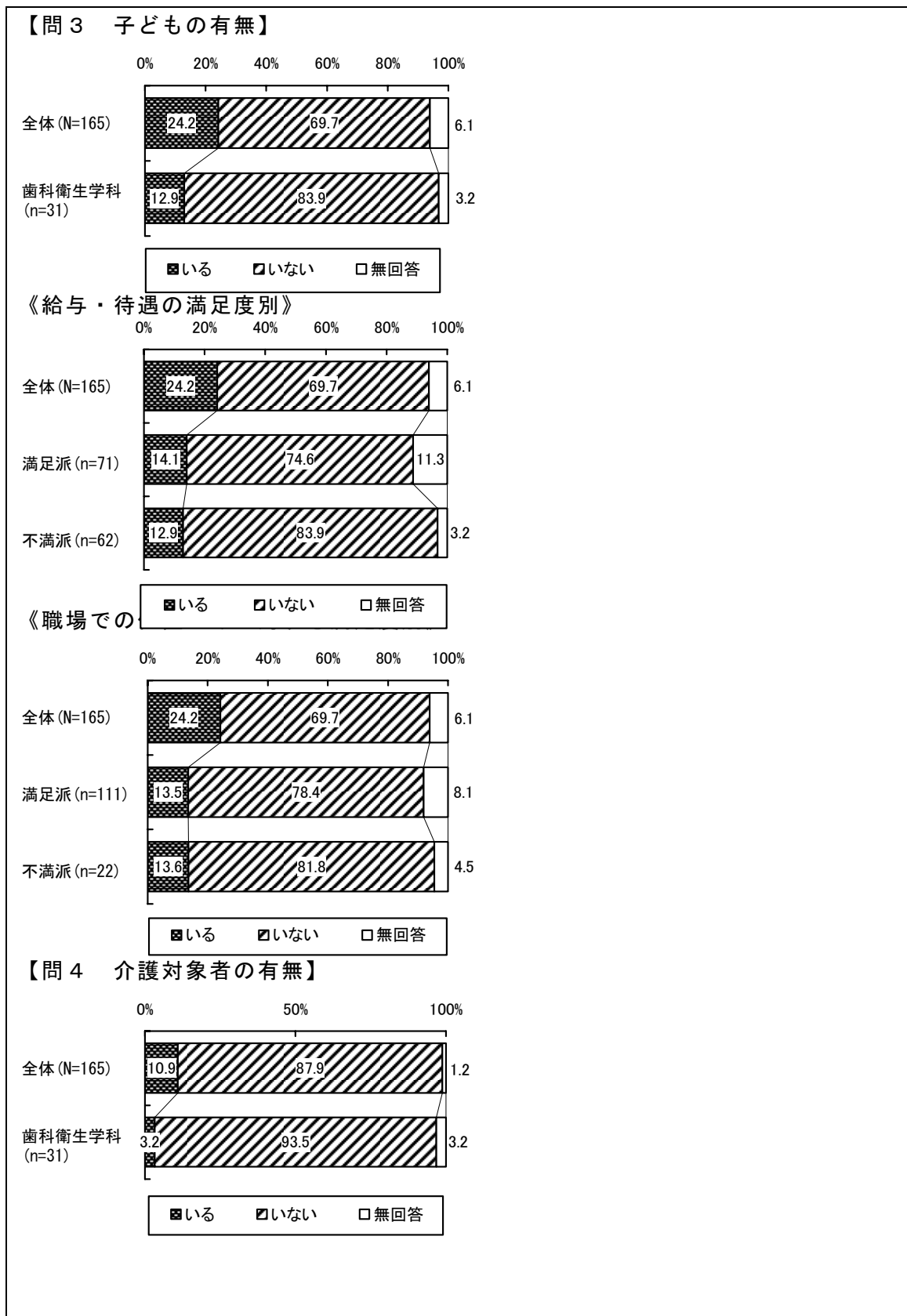
### 《給与・待遇の満足度別》



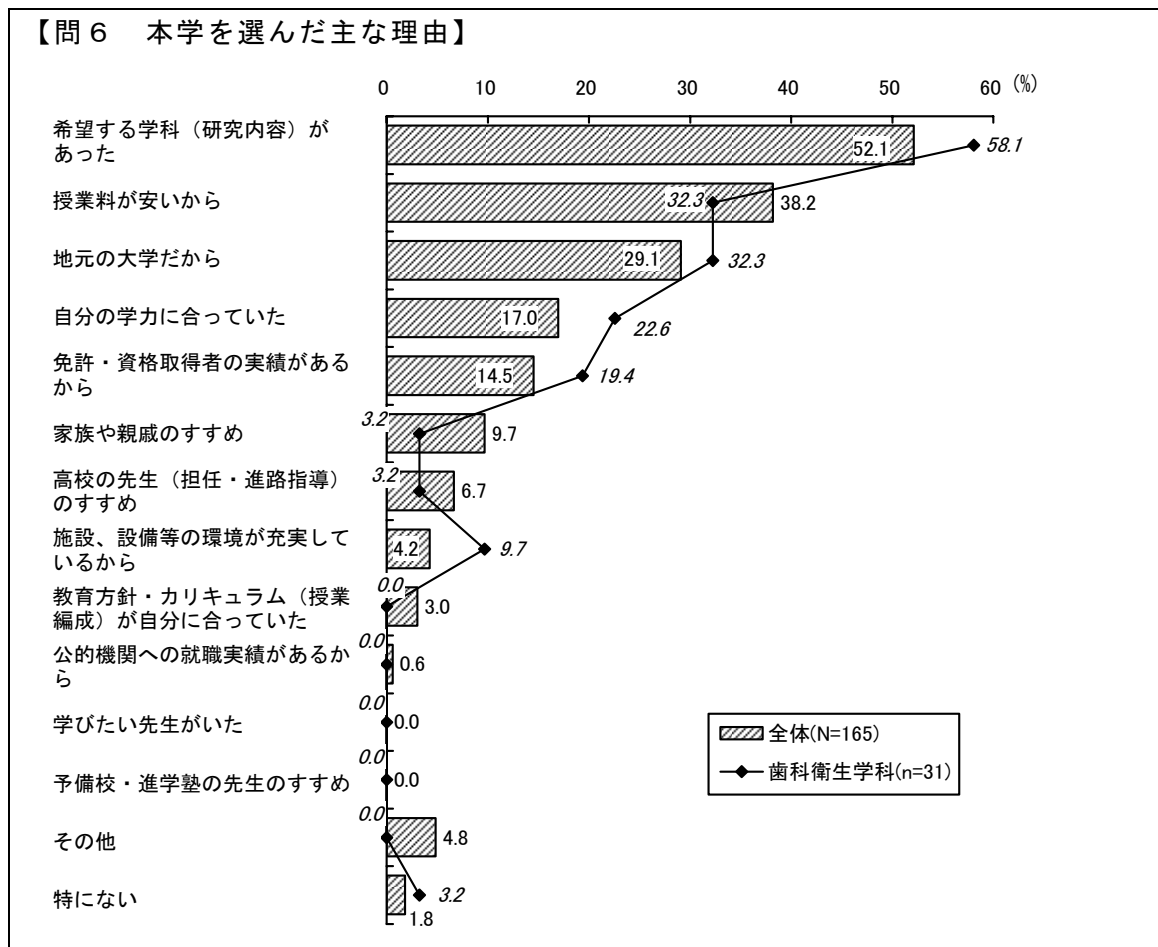
### 《職場での位置づけに対する満足度別》



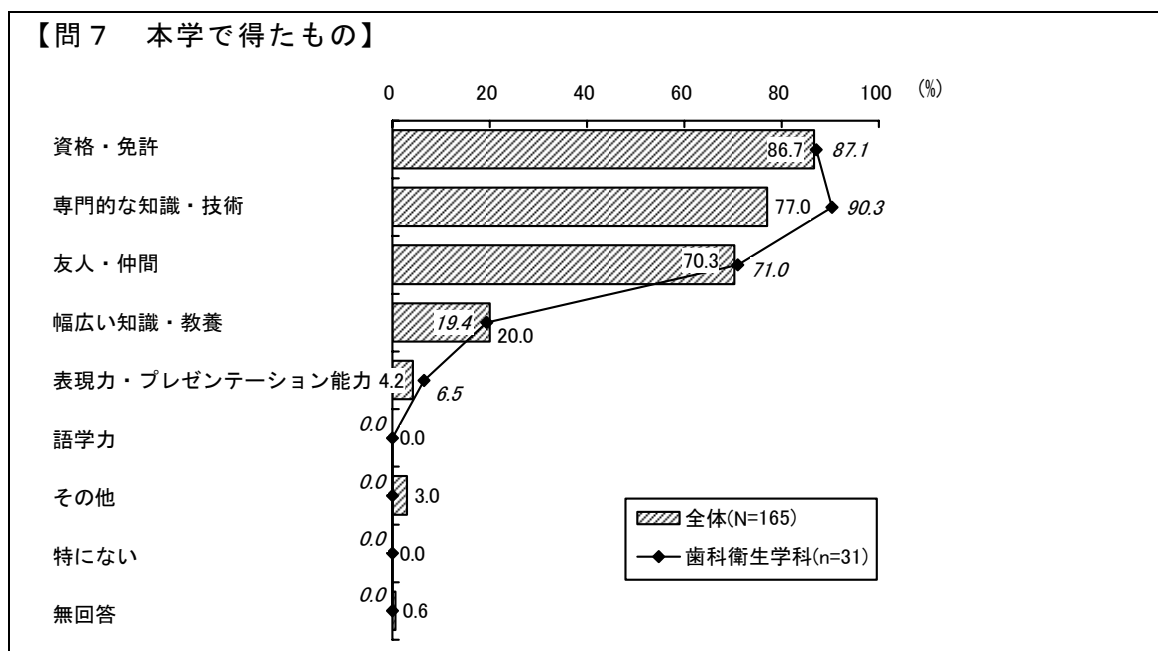
図表 2



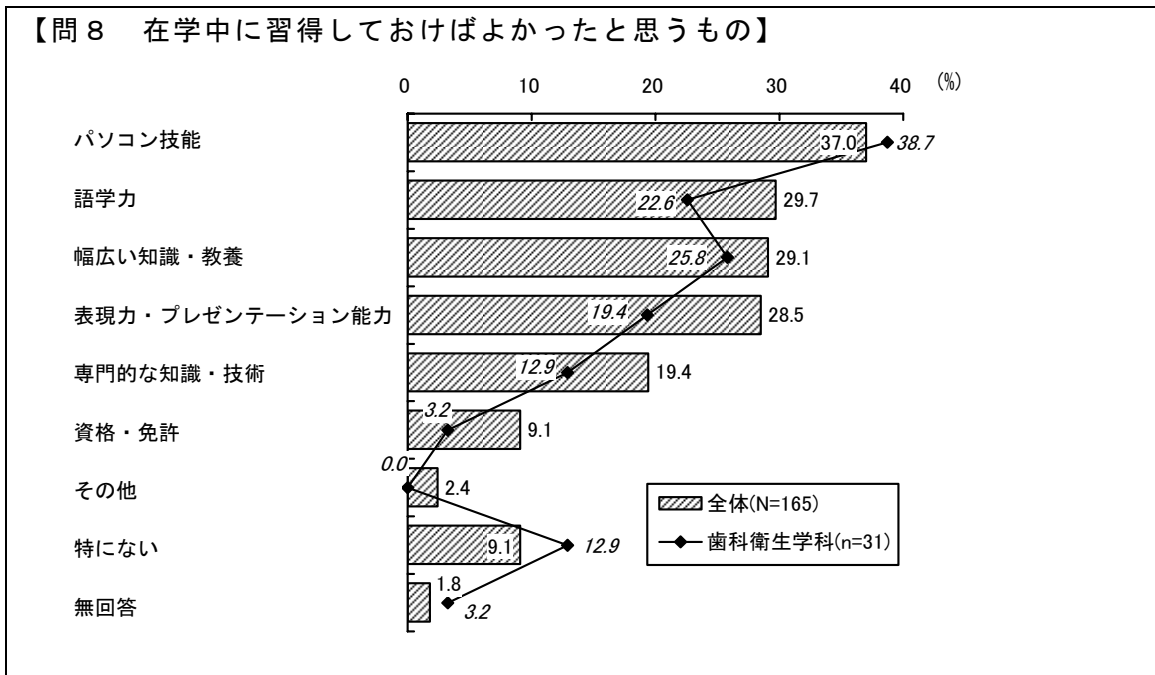
図表 3



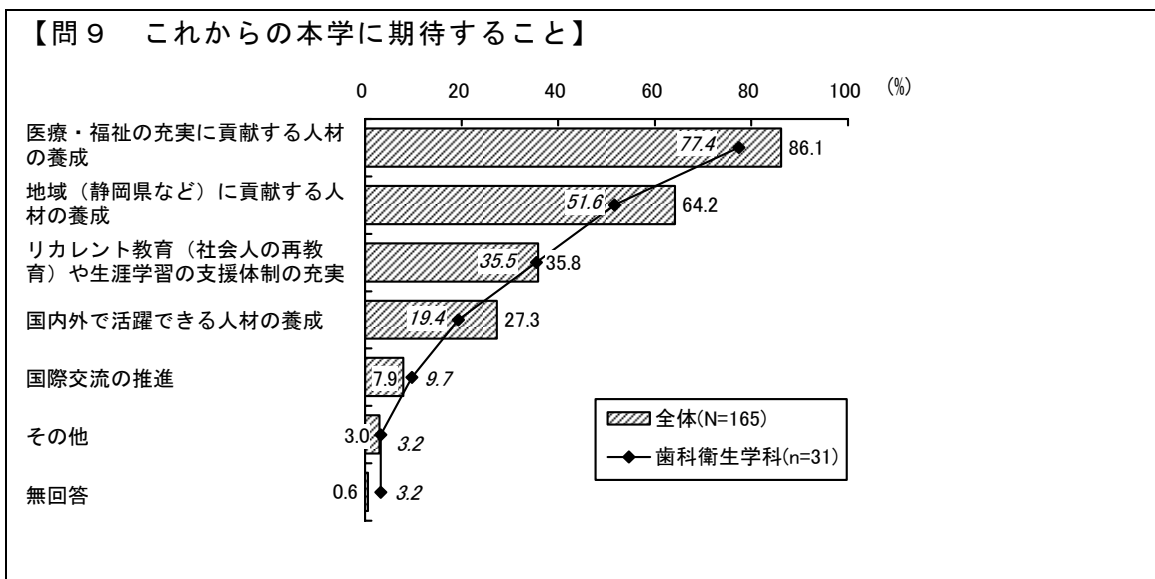
図表 4



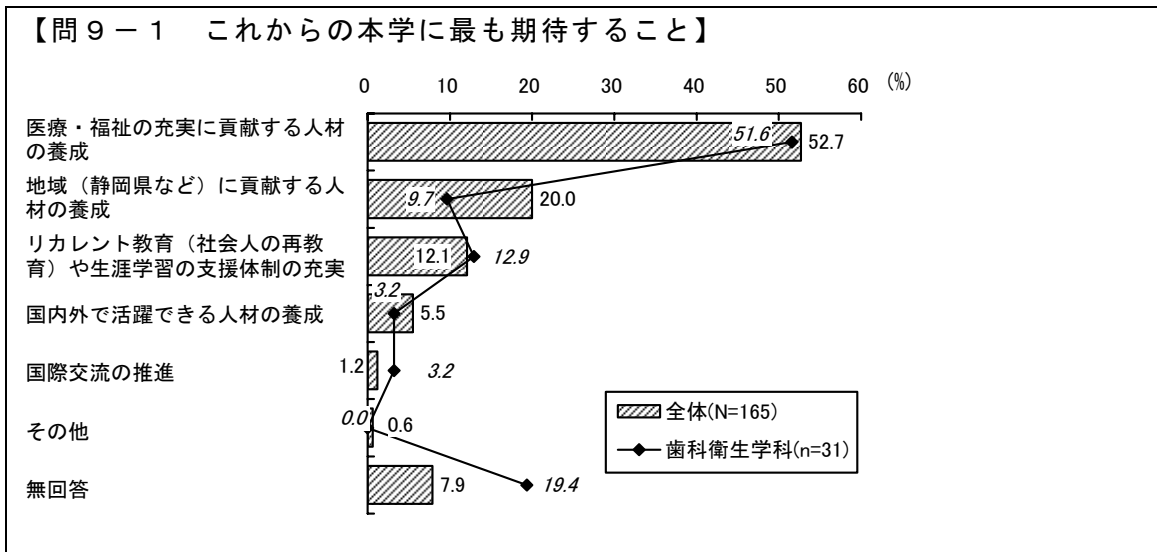
図表 5



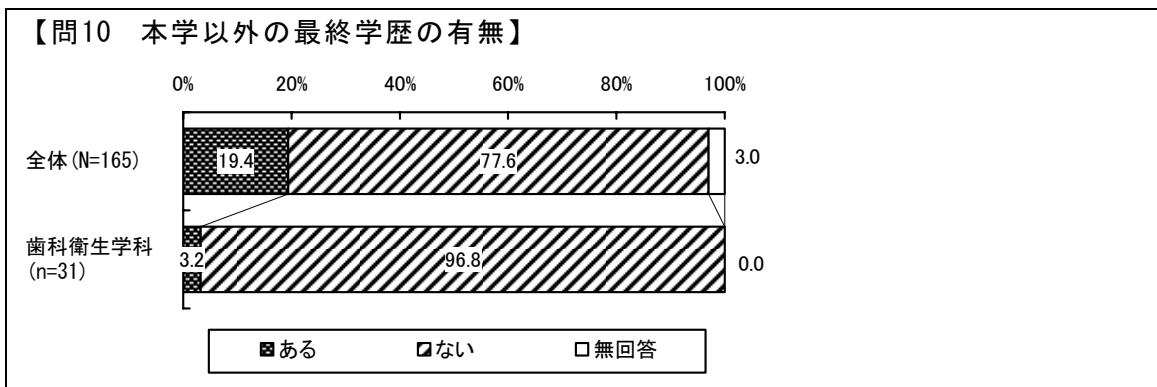
図表 6



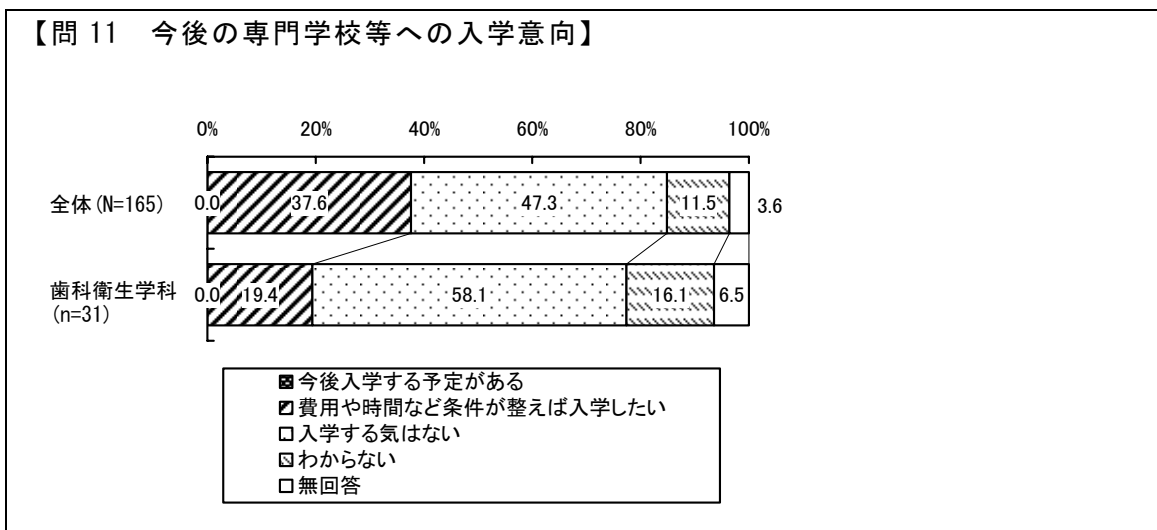
図表 7



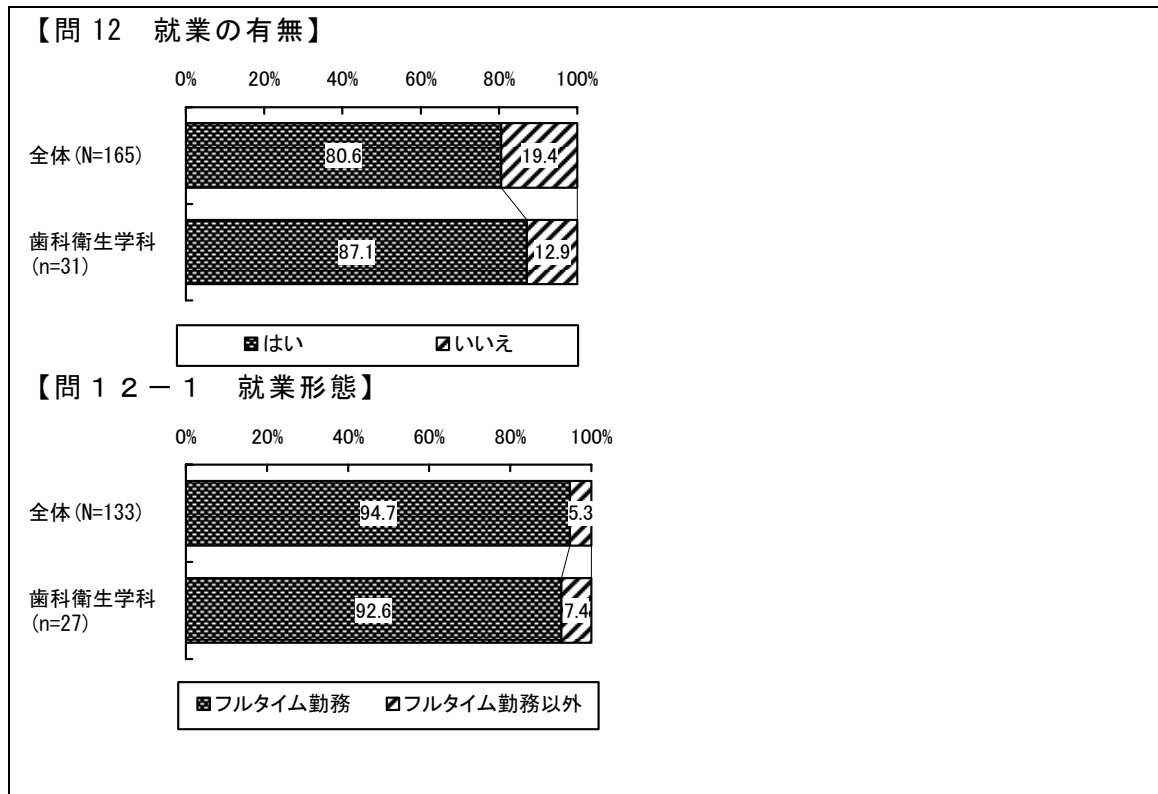
図表 8



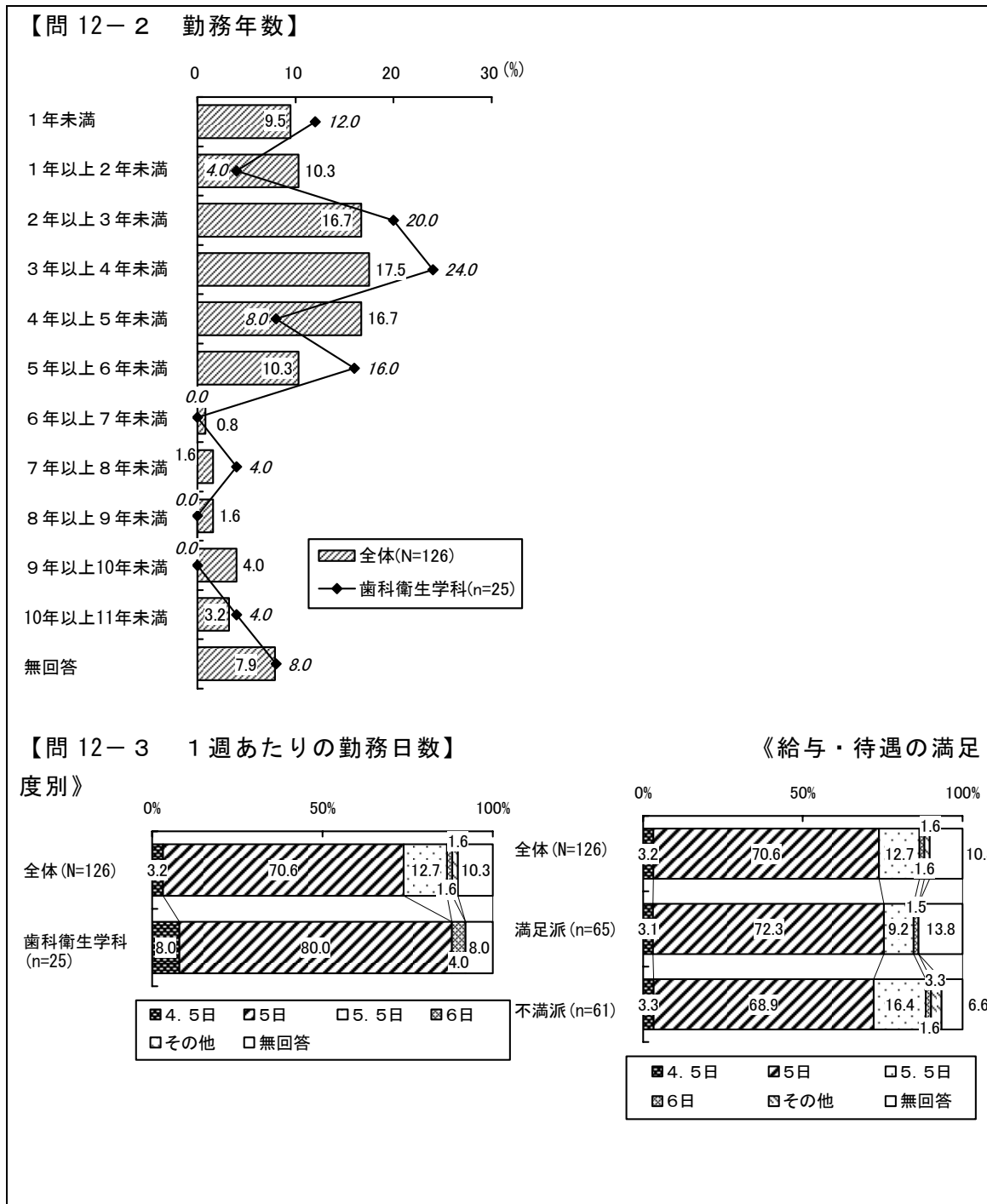
図表 9



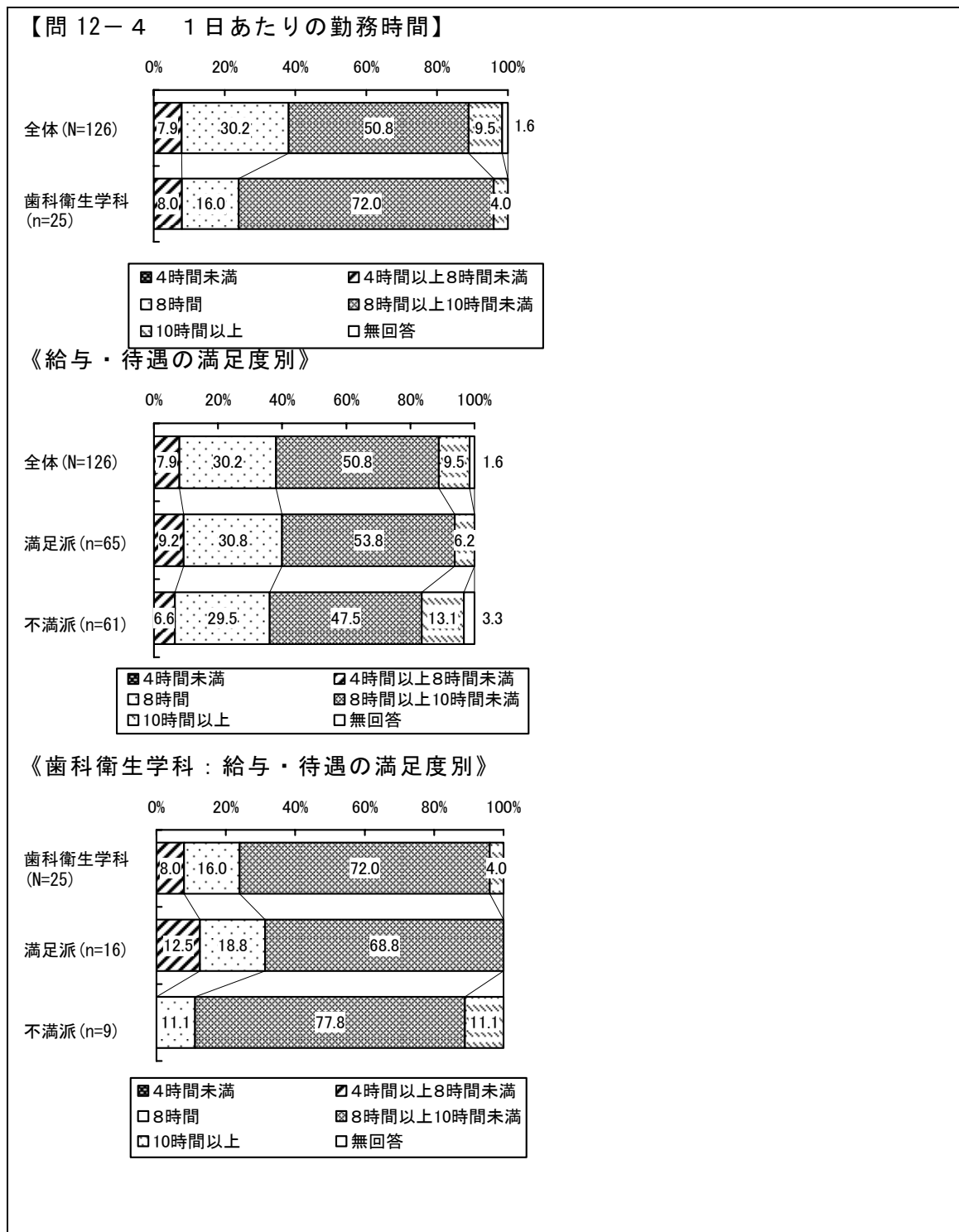
図表 10



図表 11



図表 12

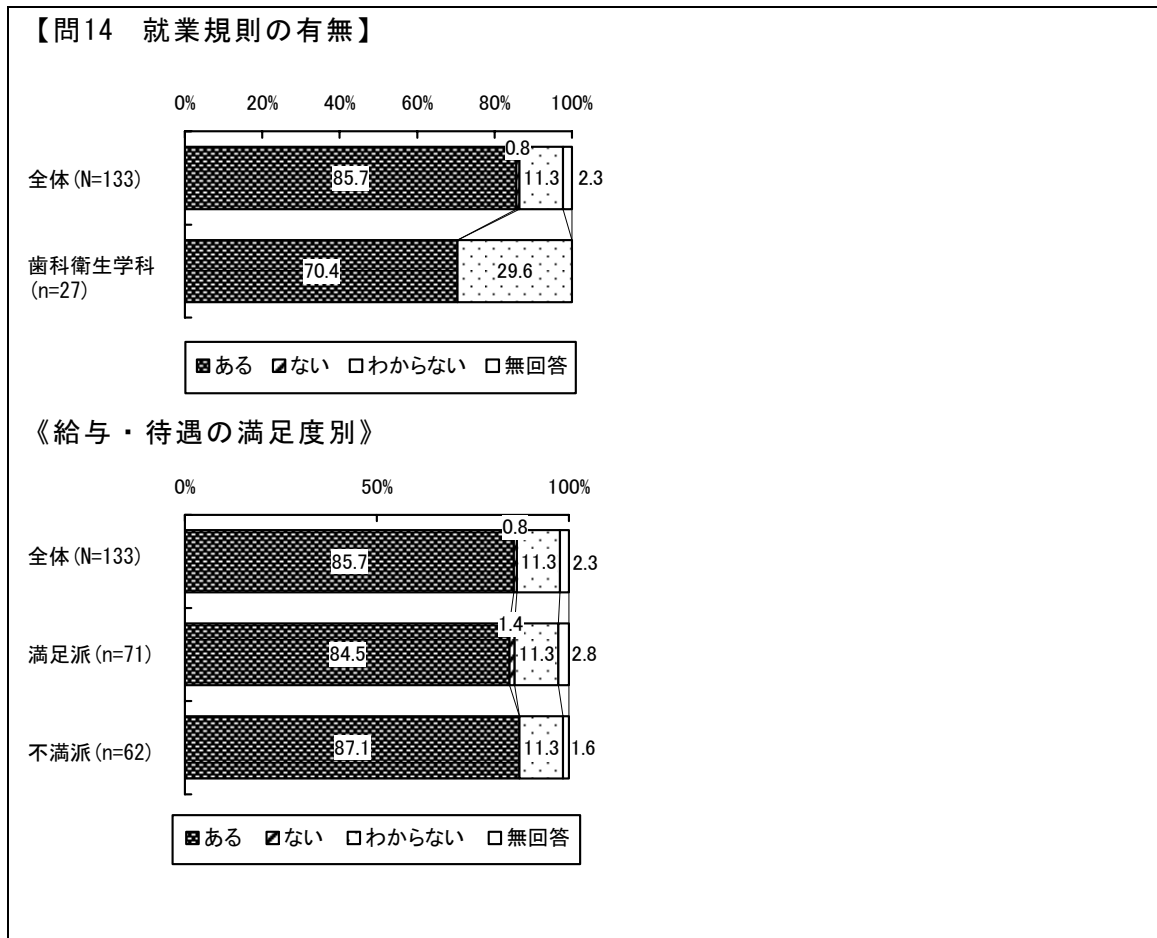


図表 13

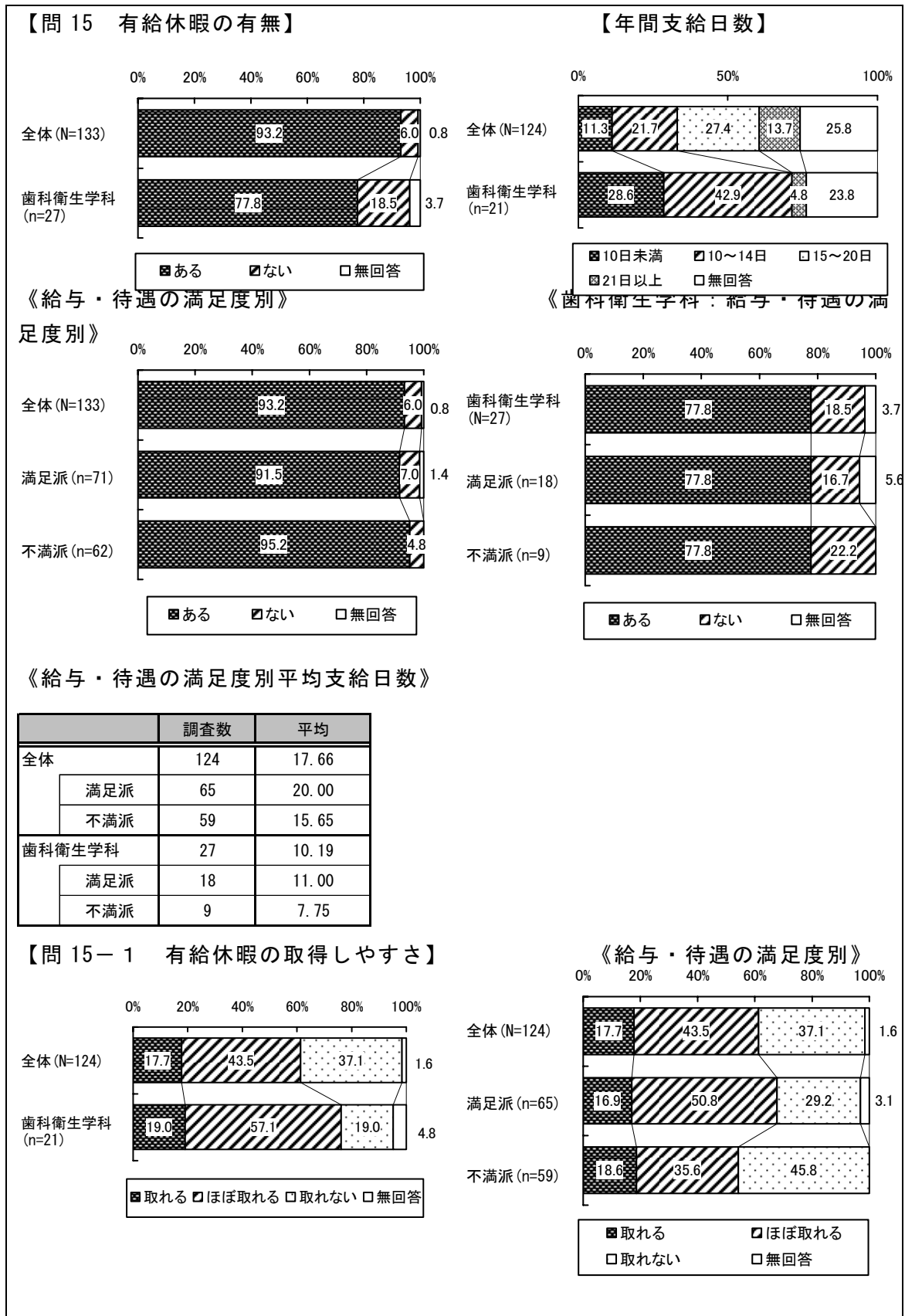
## 【問 13 勤務先の経営形態】

|               |                     | 全体   | 歯科衛生学科 |
|---------------|---------------------|------|--------|
| 調査数           |                     | 133  | 25     |
| 診療所           | 個人                  | 12.8 | 64.0   |
|               | 医療法人                | 6.8  | 28.0   |
| 病院            | 公益法人（財団法人・社会福祉法人等）  | 0.8  | 0.0    |
|               | 学校法人                | 0.8  | 0.0    |
|               | 医療法人                | 4.5  | 4.0    |
|               | 公的医療機関              | 22.6 | 0.0    |
| 公衆衛生関係        | 市町村（保健センター等を含む）     | 0.8  | 4.0    |
| 大学・教育機関       | その他                 | 0.8  | 0.0    |
| 行政機関          | 福祉事務所               | 0.8  | 0.0    |
|               | 都道府県庁               | 0.8  | 0.0    |
|               | 市町村役場               | 2.3  | 0.0    |
|               | その他                 | 0.8  | 0.0    |
| 社会福祉施設（経営形態）  | 社公益法人（財団法人・社会福祉法人等） | 29.3 | 0.0    |
|               | 公的機関（国、地方自治体）       | 0.8  | 0.0    |
|               | 企業                  | 0.8  | 0.0    |
|               | 医療法人                | 1.5  | 0.0    |
|               | その他                 | 0.8  | 0.0    |
| 社会福祉施設（施設の種類） | 障害者施設               | 5.3  | 0.0    |
|               | 老人保健施設              | 1.5  | 0.0    |
|               | 老人福祉施設              | 15.0 | 0.0    |
|               | 保育所（公立・私立）          | 7.5  | 0.0    |
|               | その他                 | 2.3  | 0.0    |
| 事業所関係         | 企業                  | 5.3  | 0.0    |
| その他           | その他                 | 1.5  | 0.0    |

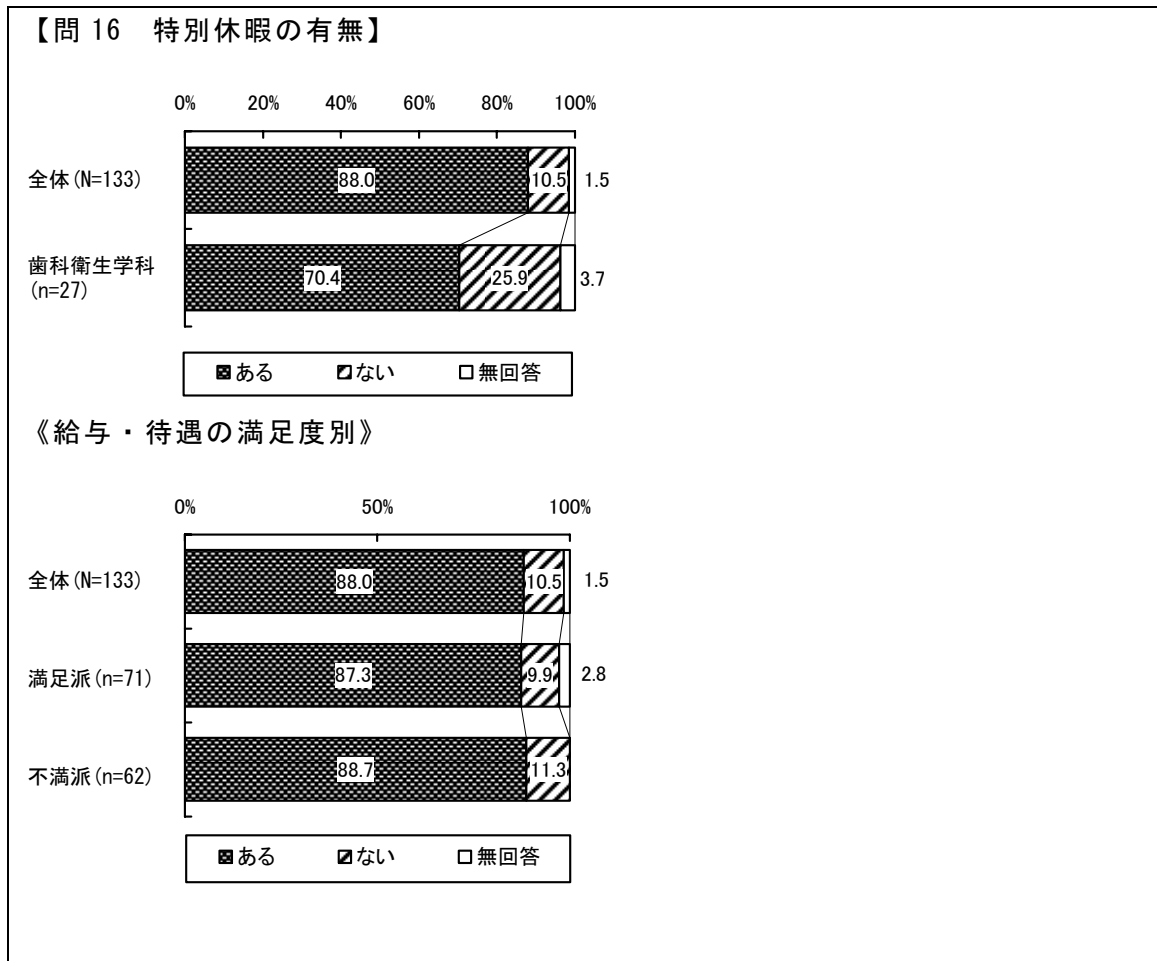
図表 14



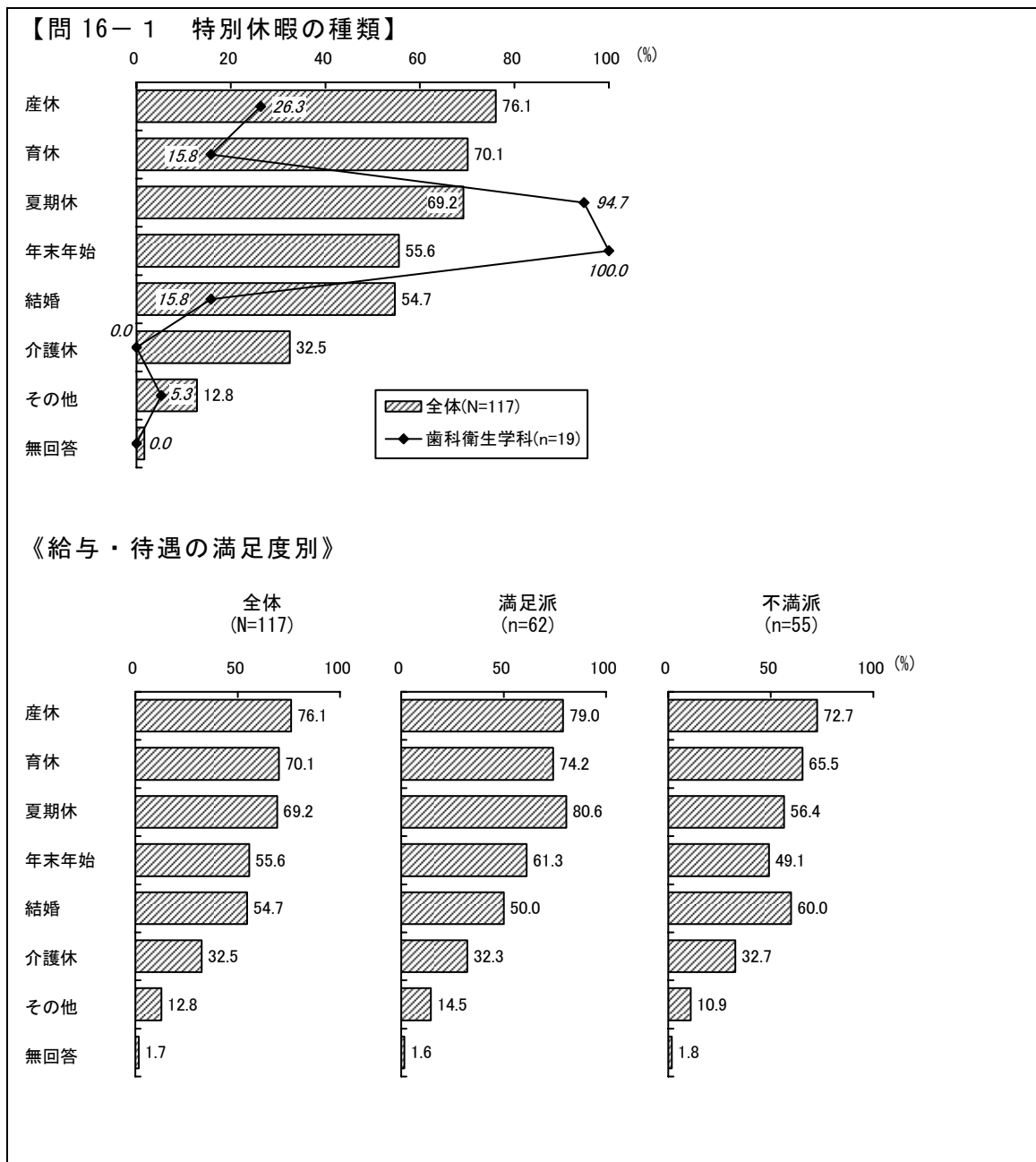
図表 15



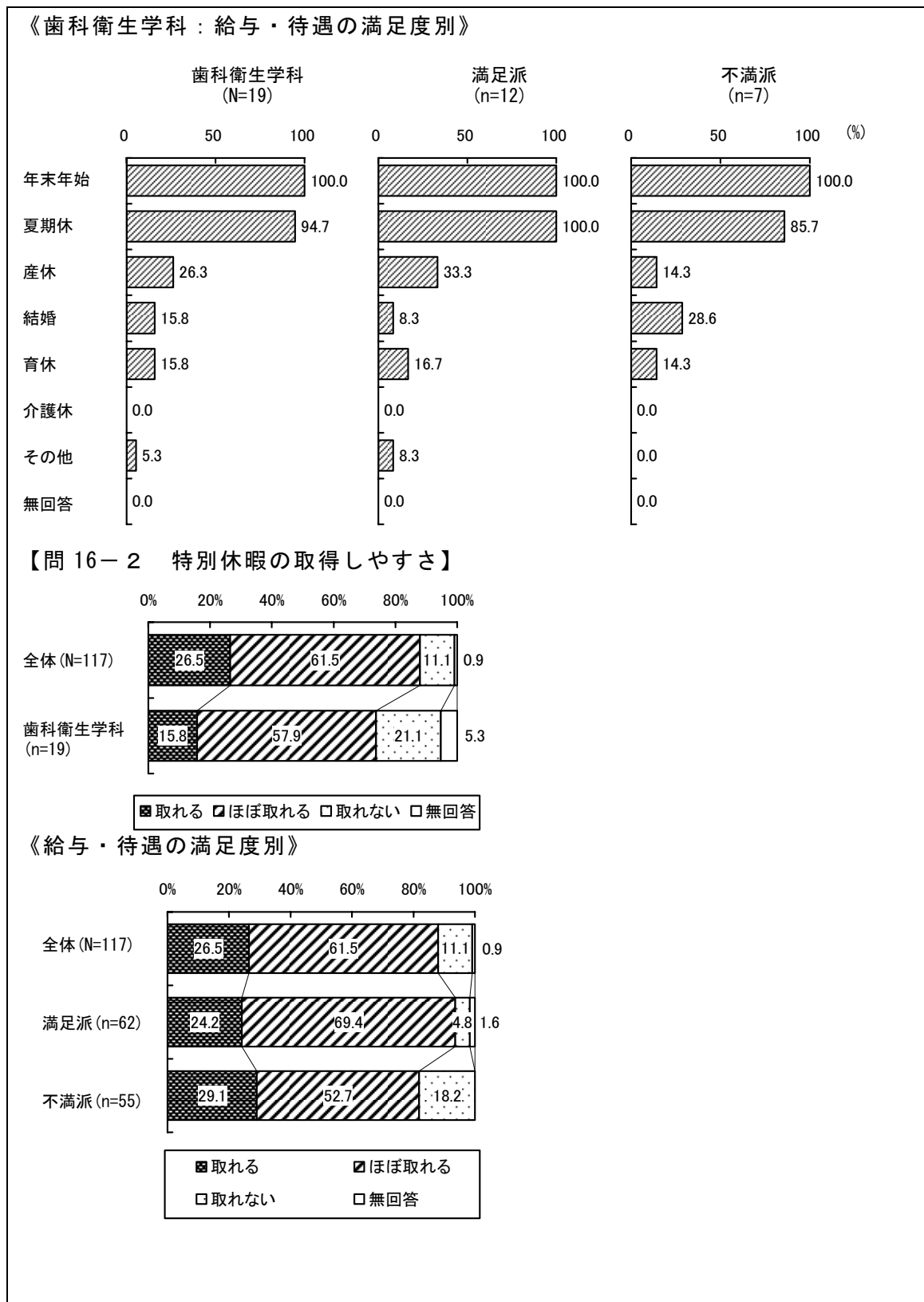
図表 16



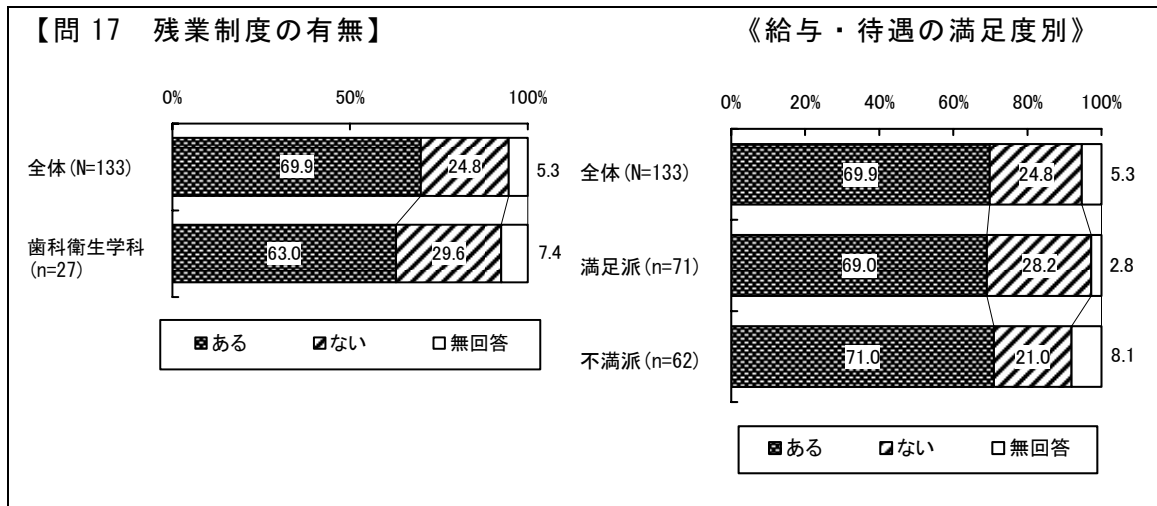
図表 17



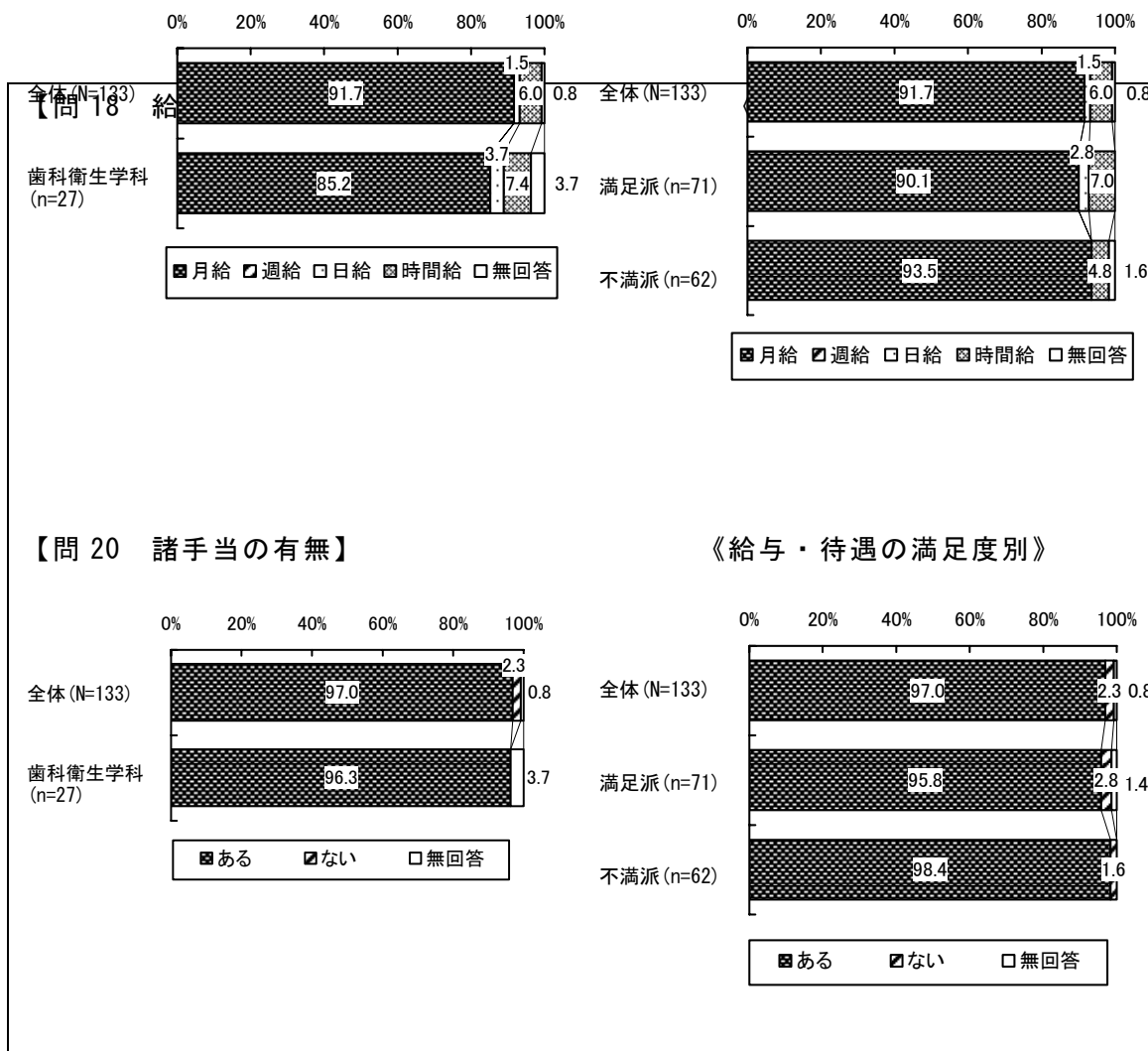
図表 18



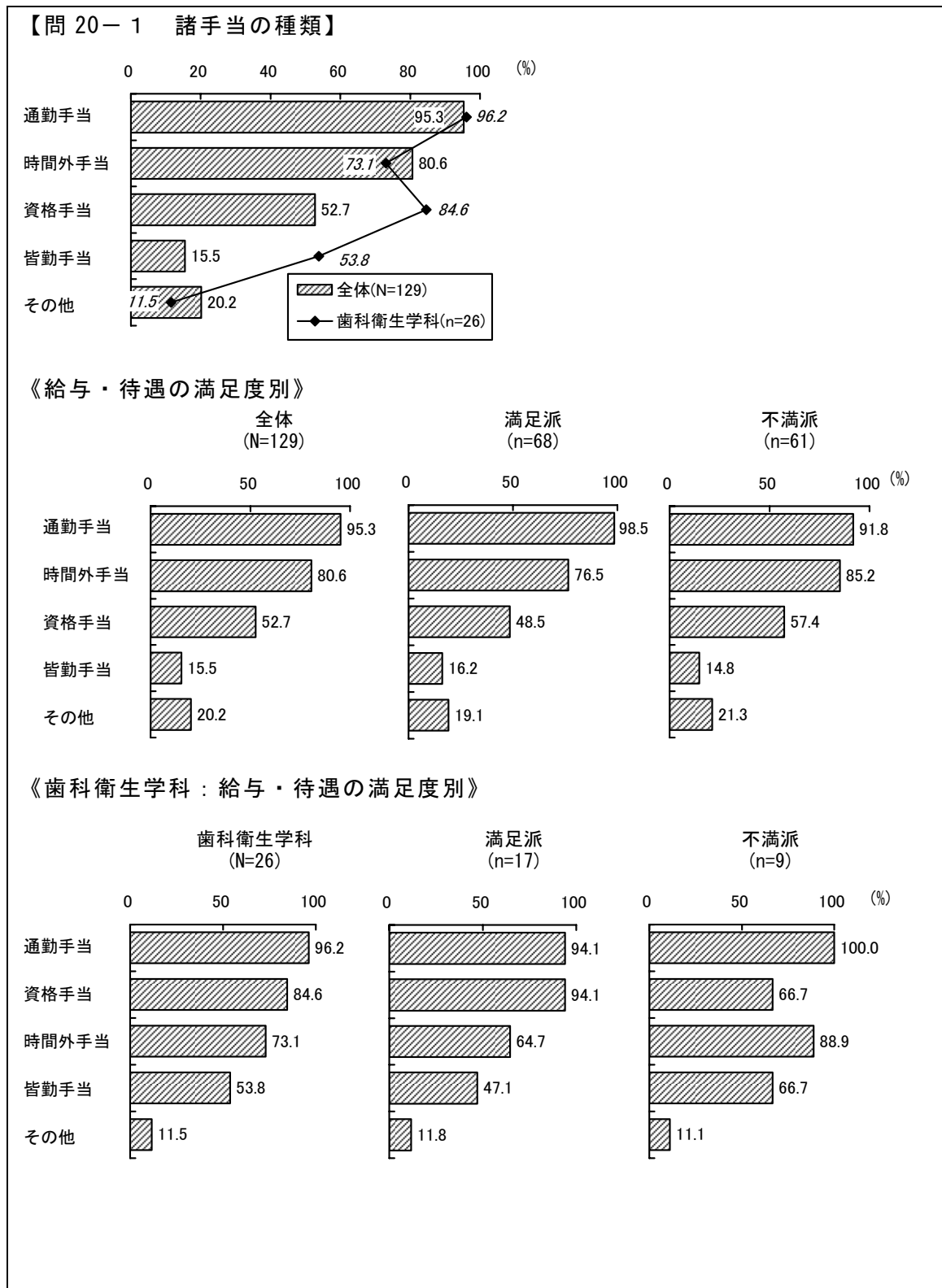
図表 19



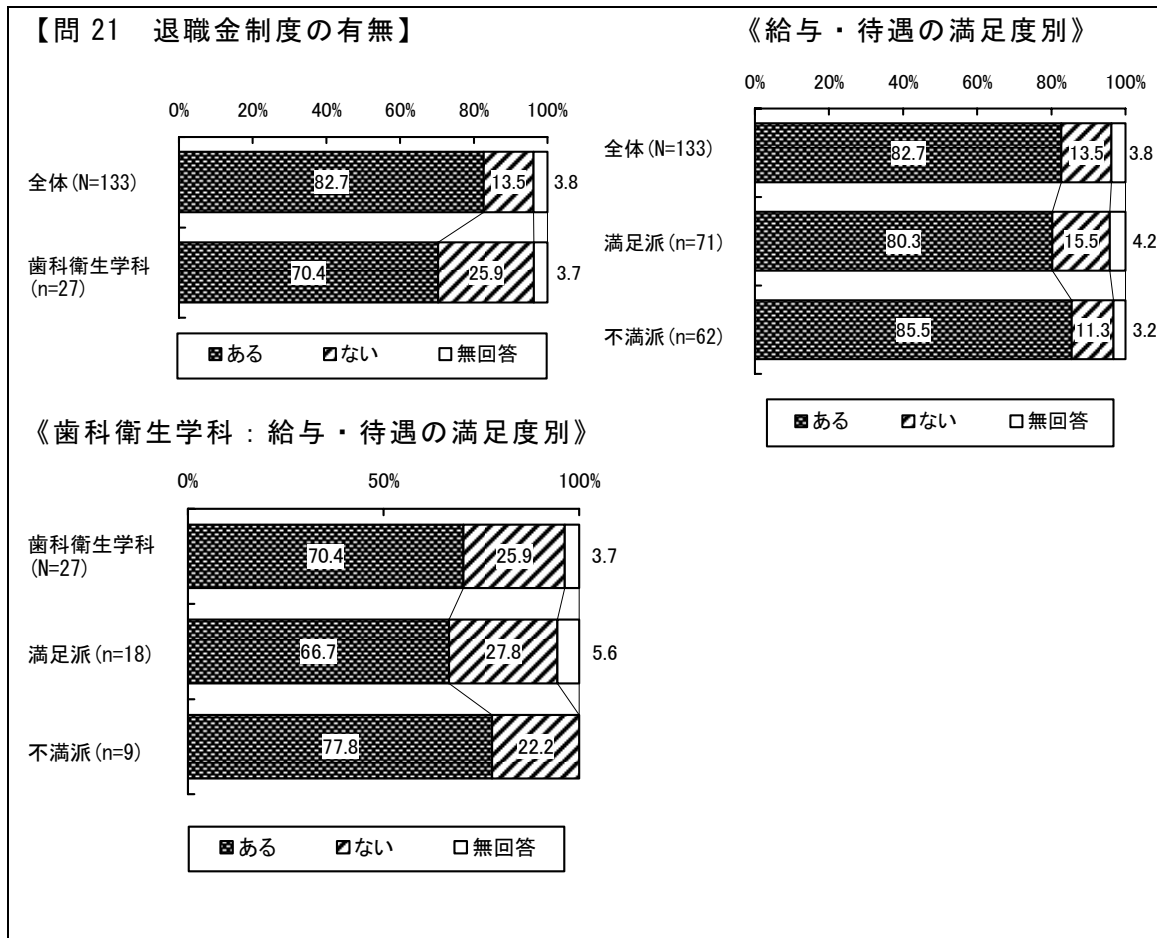
図表 20



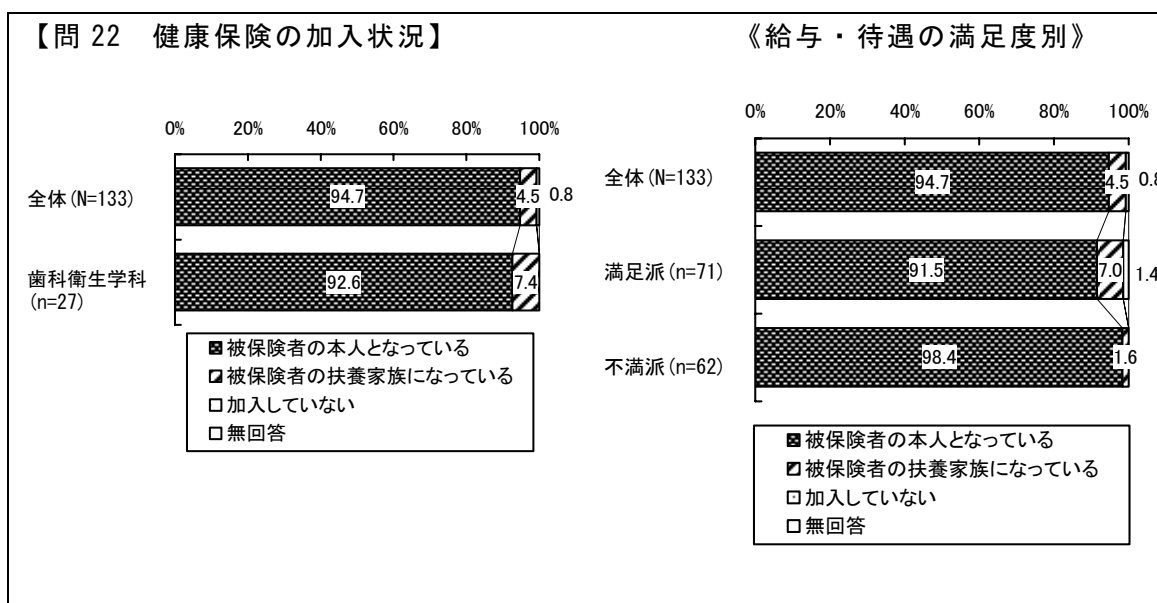
図表 21



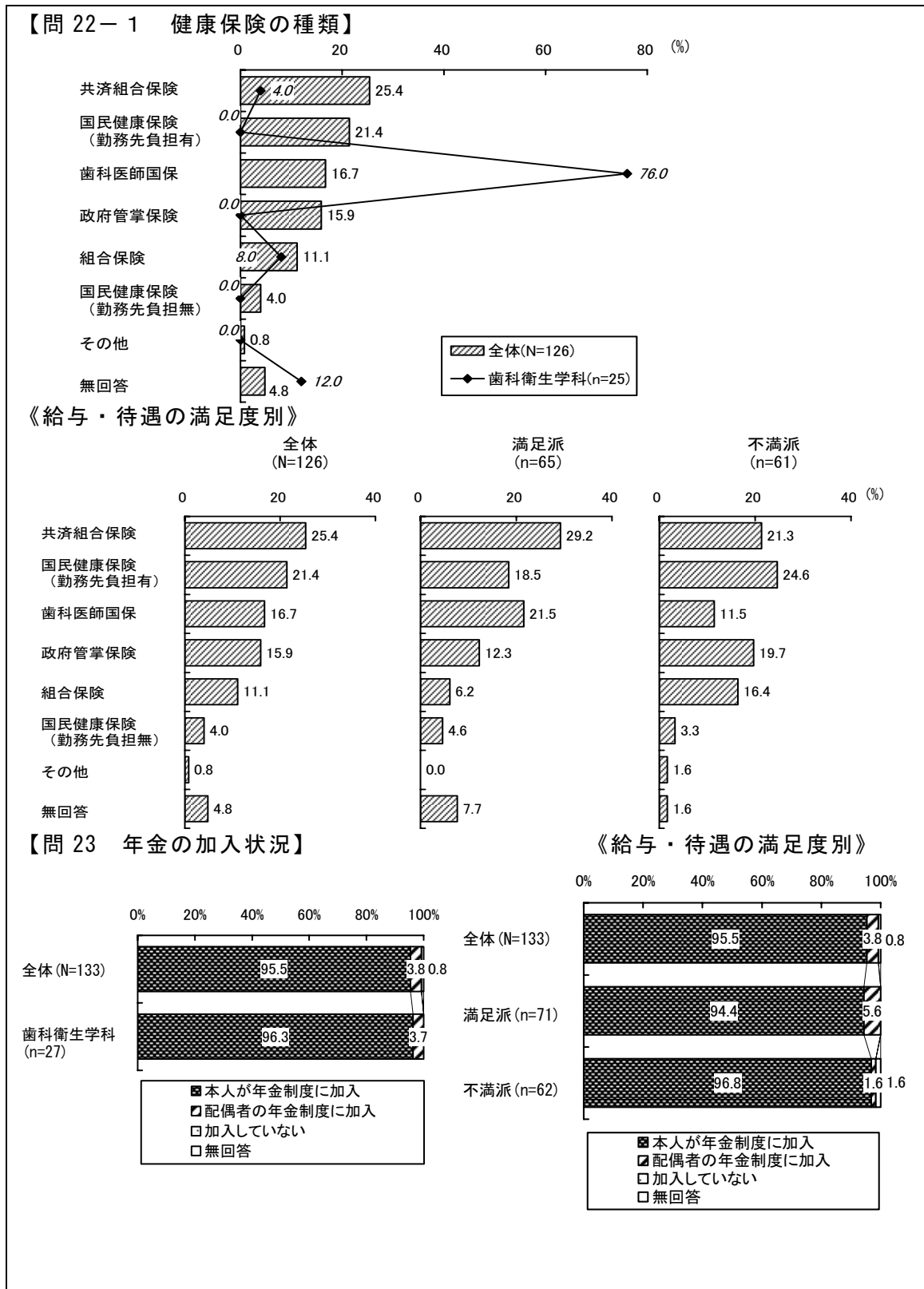
図表 22



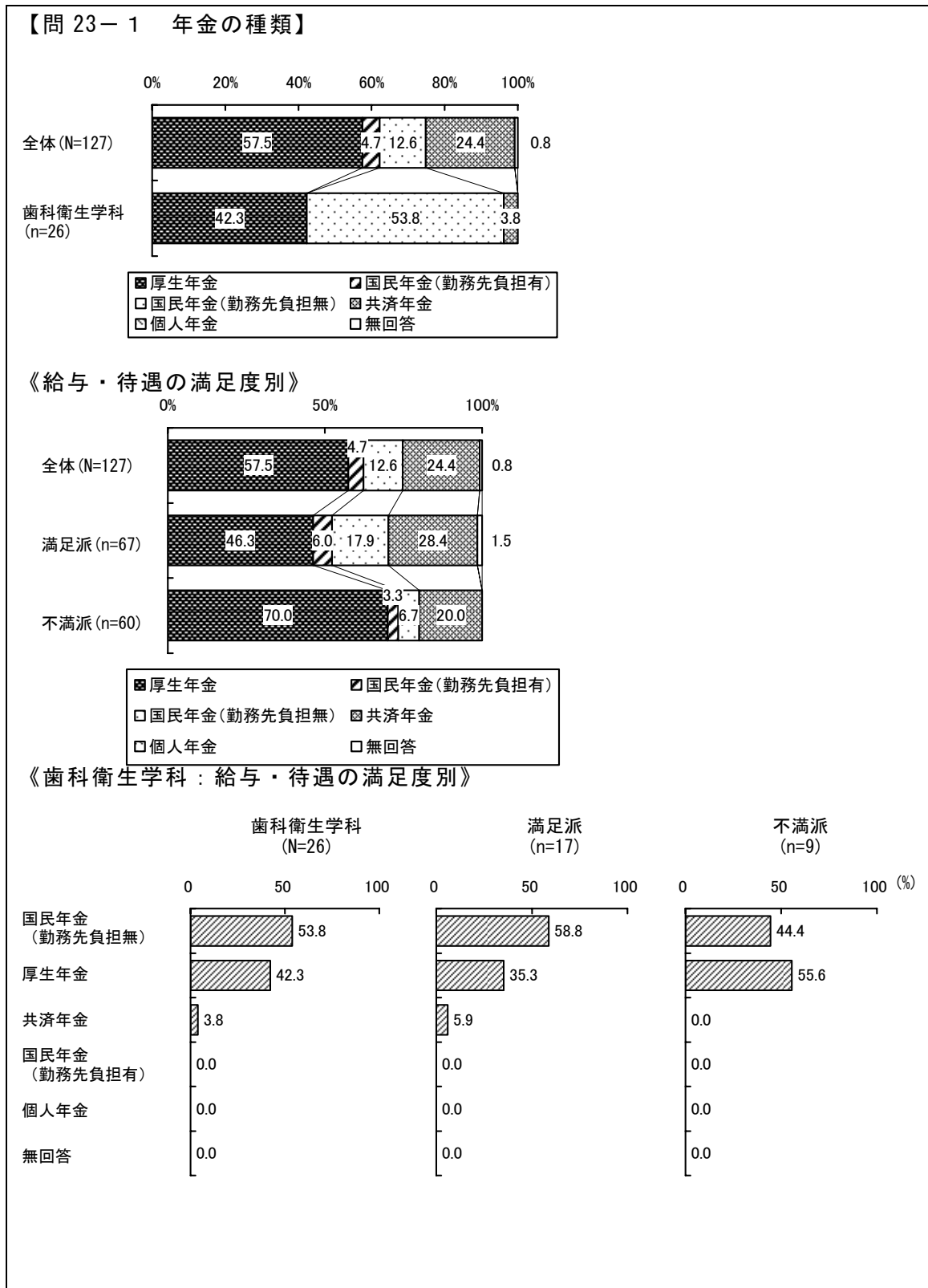
図表 23



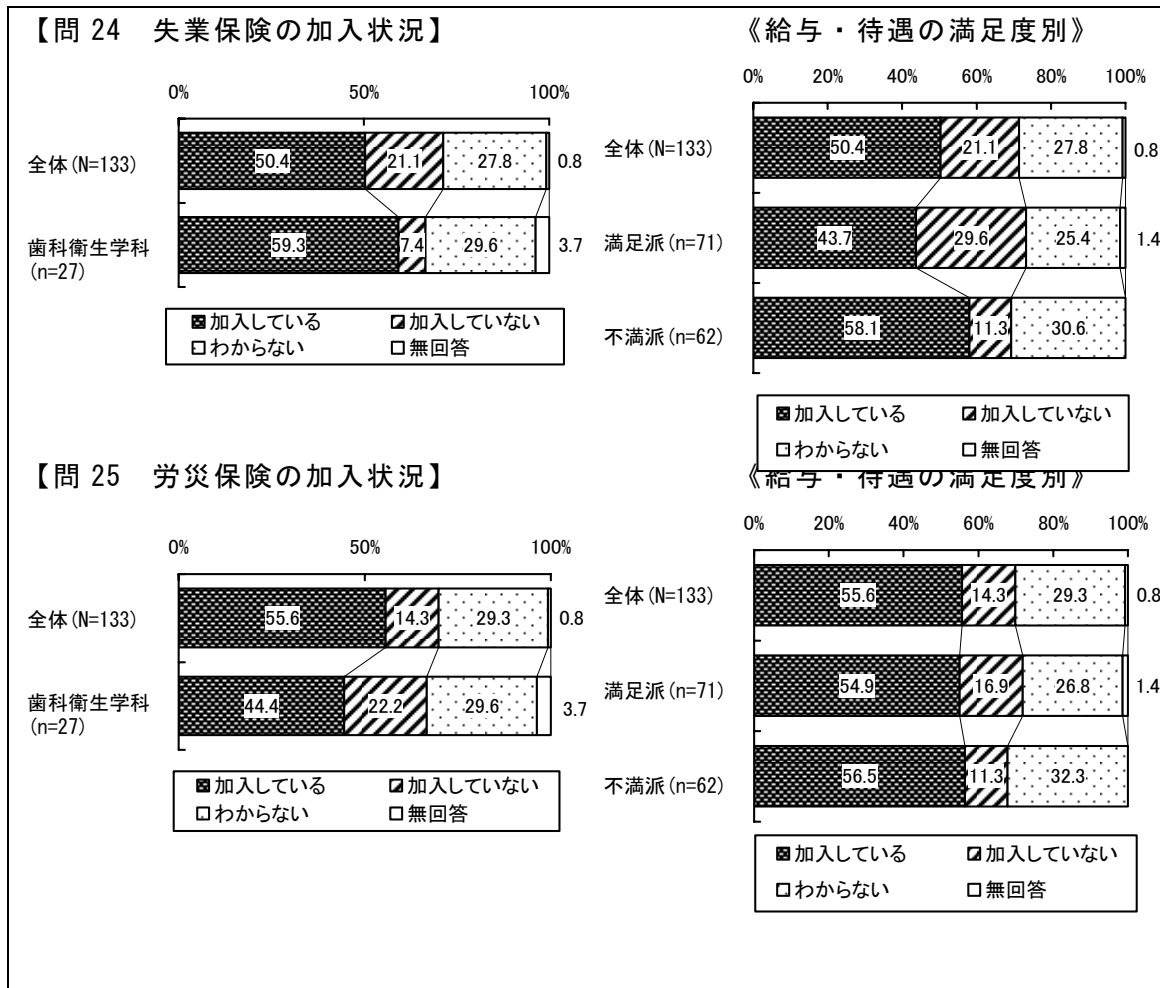
図表 24



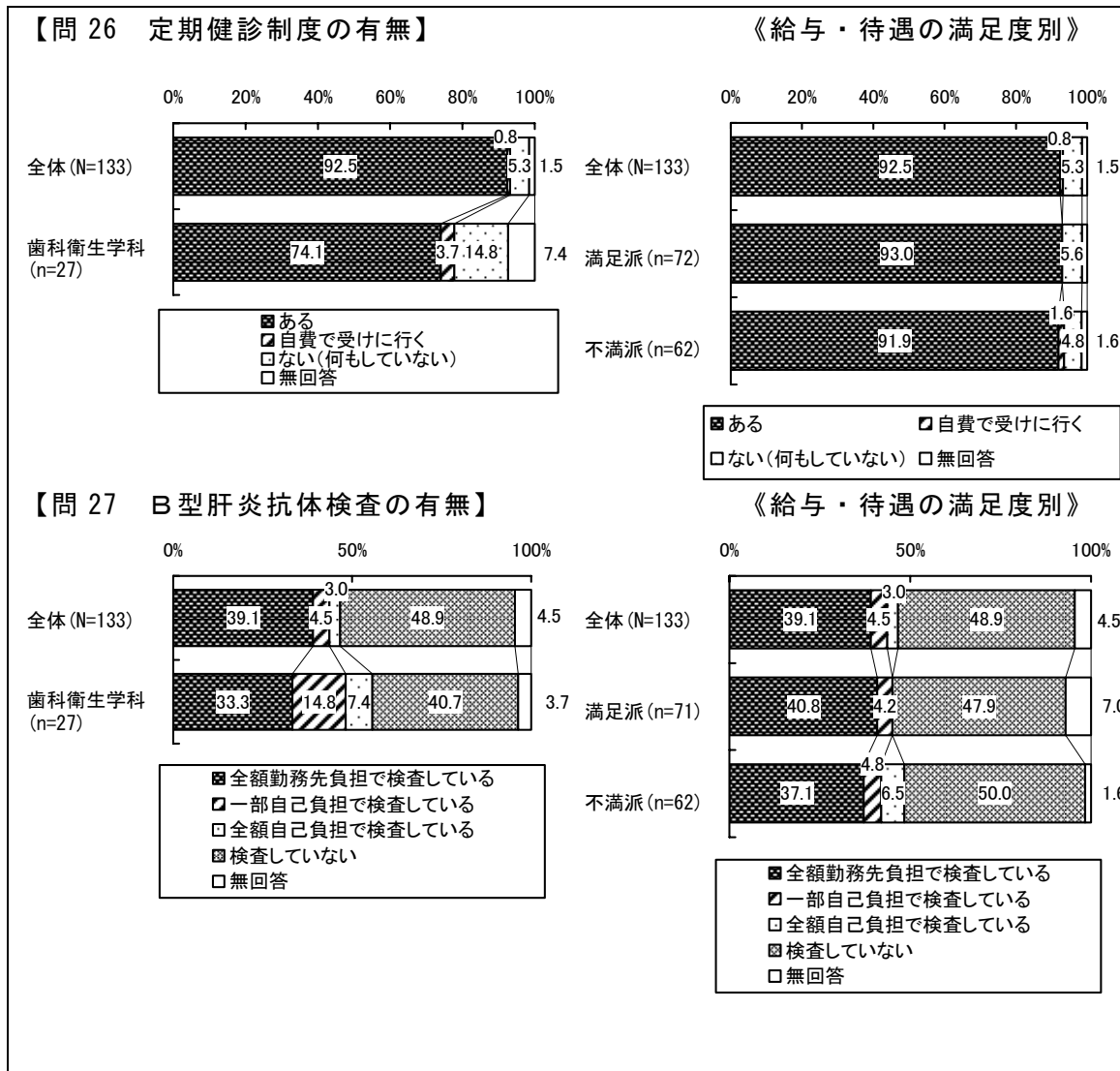
図表 25



図表 26

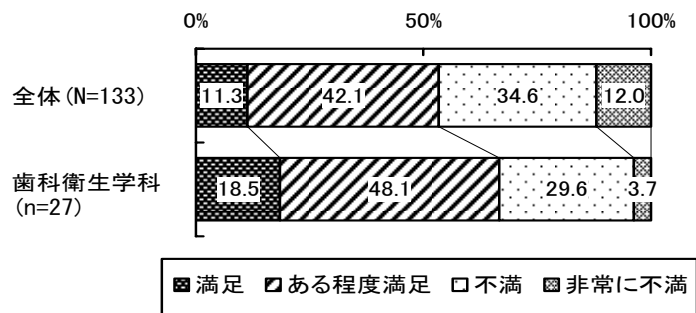


図表 27

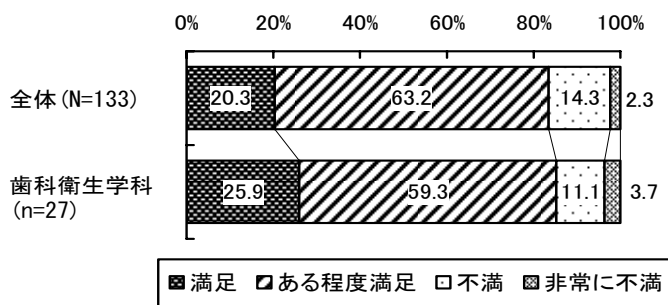


図表 28

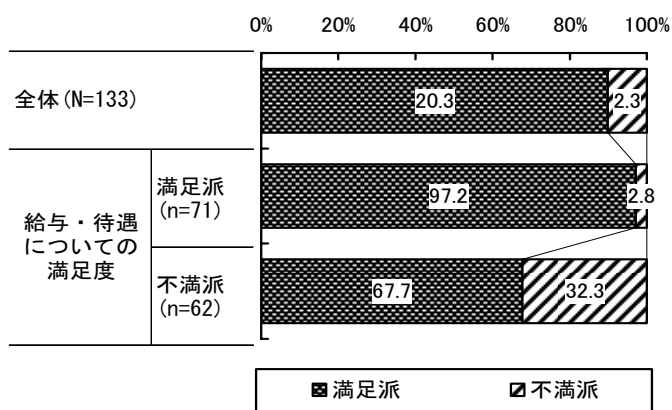
## 【問28 給与・待遇についての満足度】



## 【問29 職場での位置づけについての満足度】

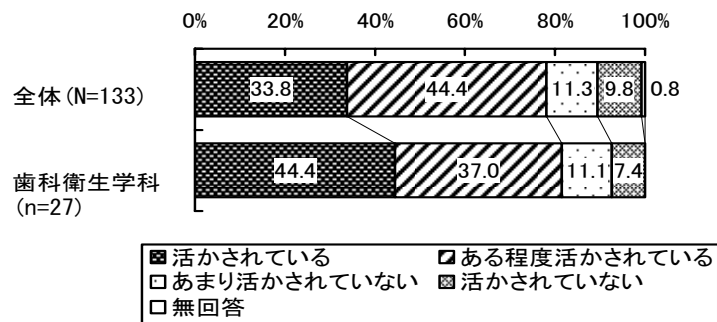


## 《給与・待遇の満足度別》

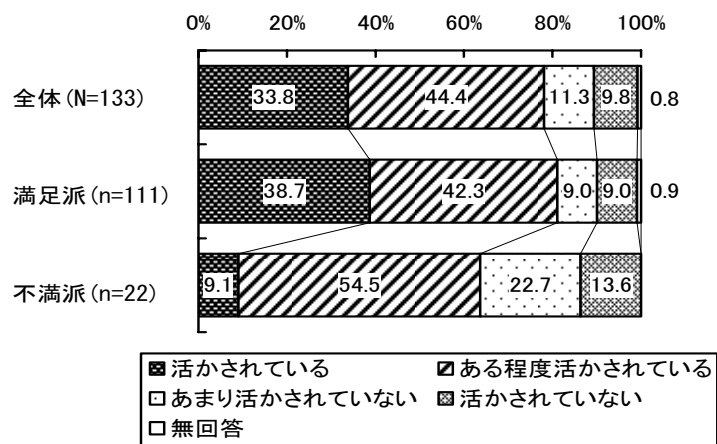


図表 29

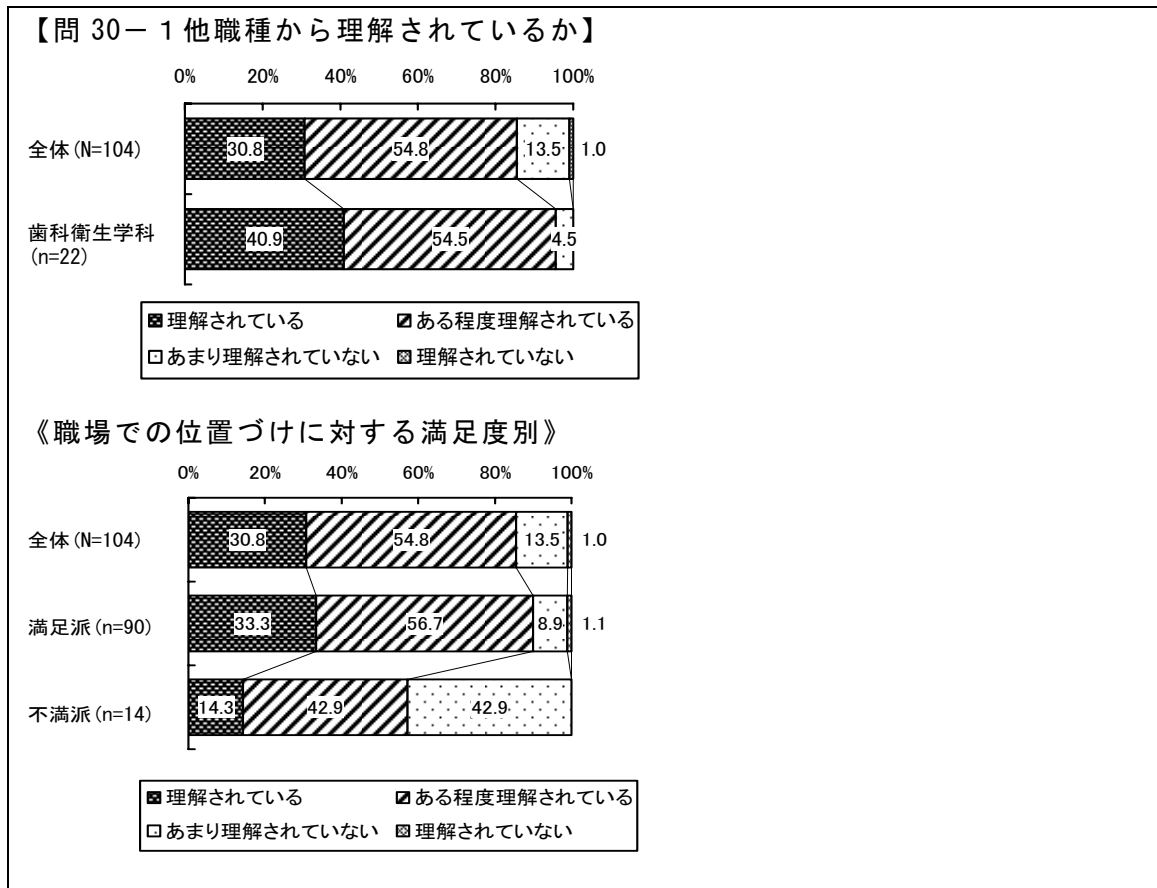
【問 30 専門性が活かされているか】



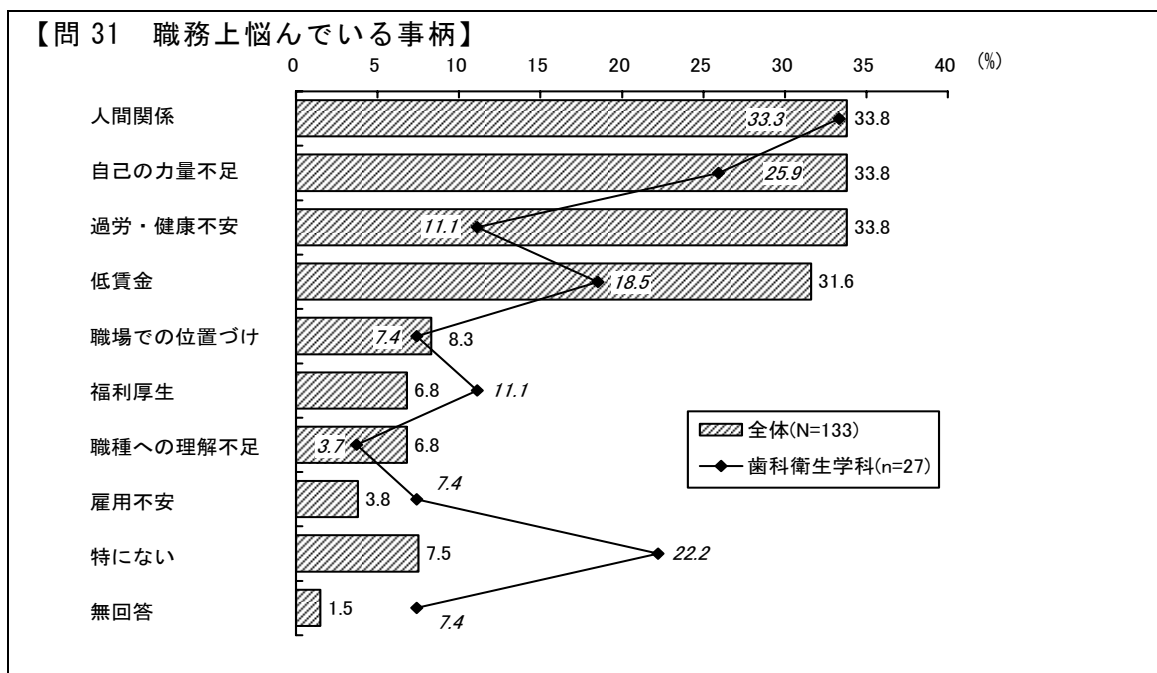
《職場での位置づけに対する満足度別》



図表 30

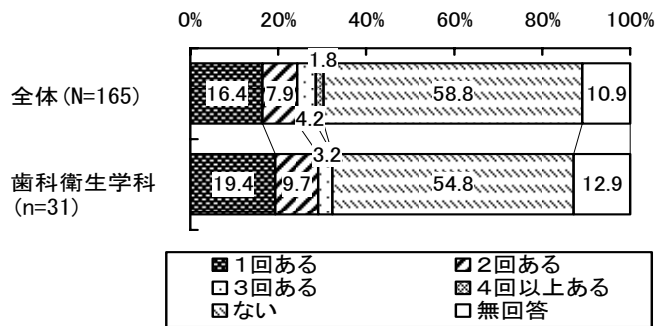


図表 31

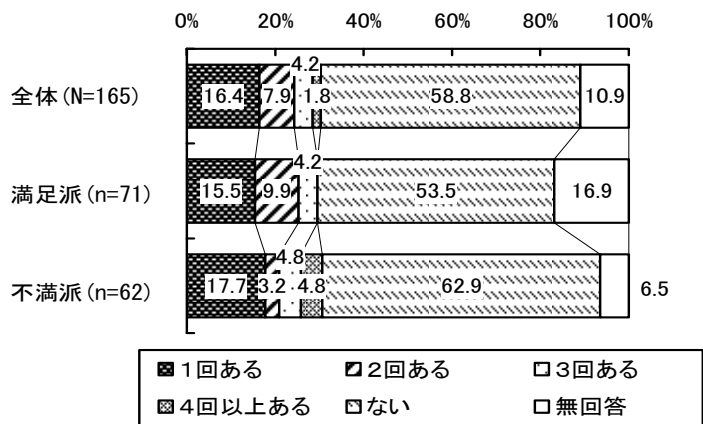


図表 32

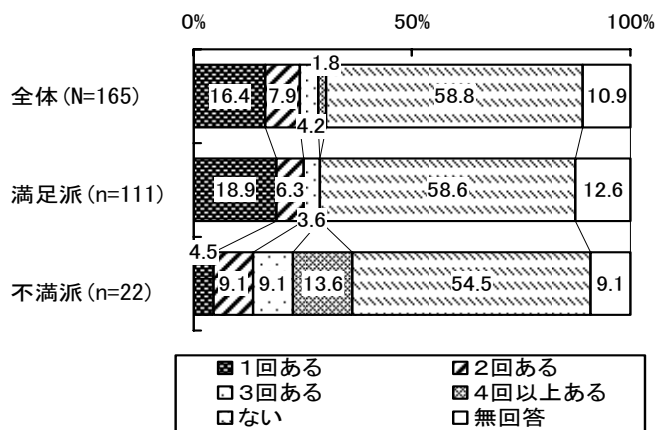
## 【問 34 転職経験】



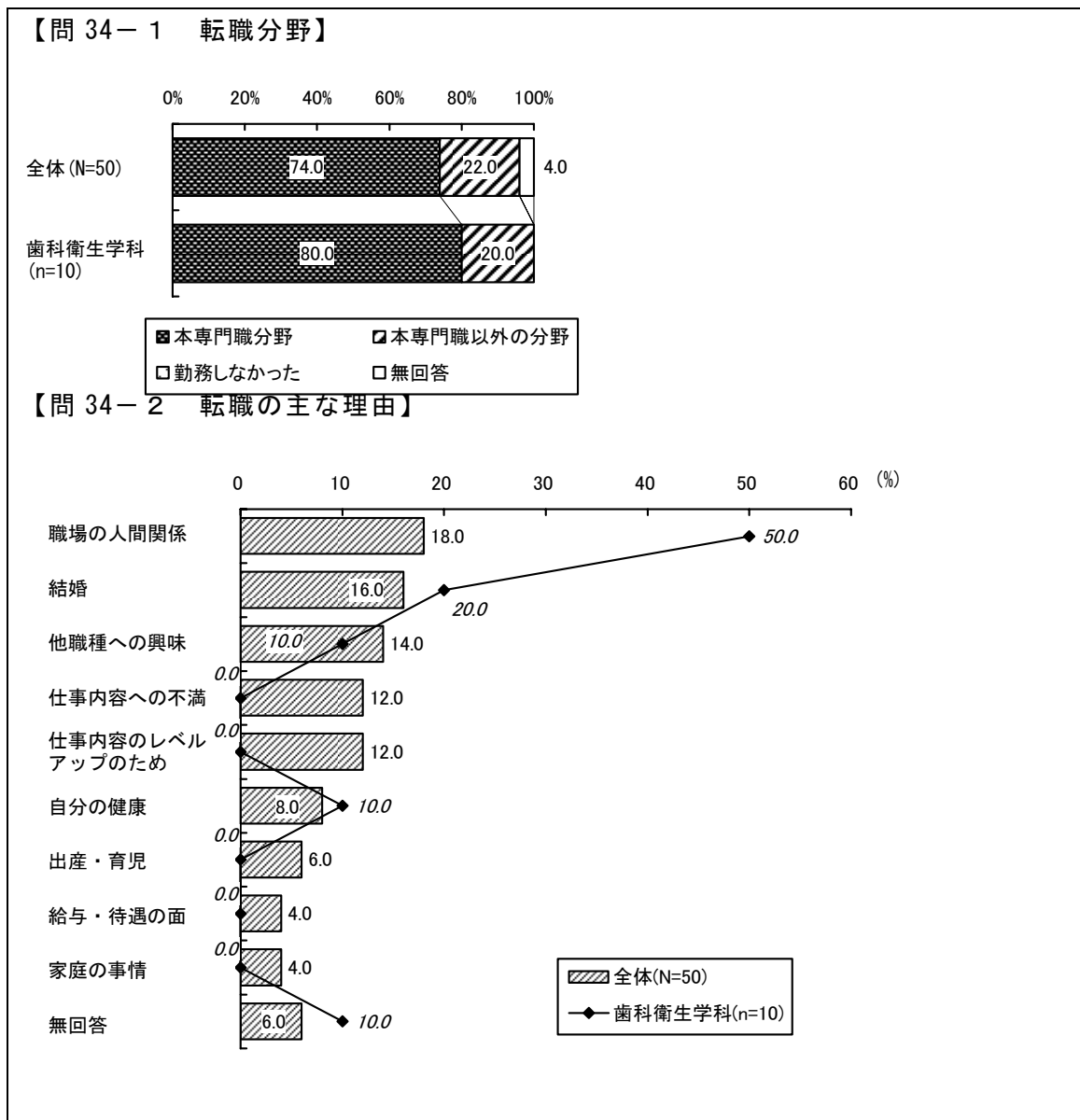
## 《給与・待遇の満足度別》



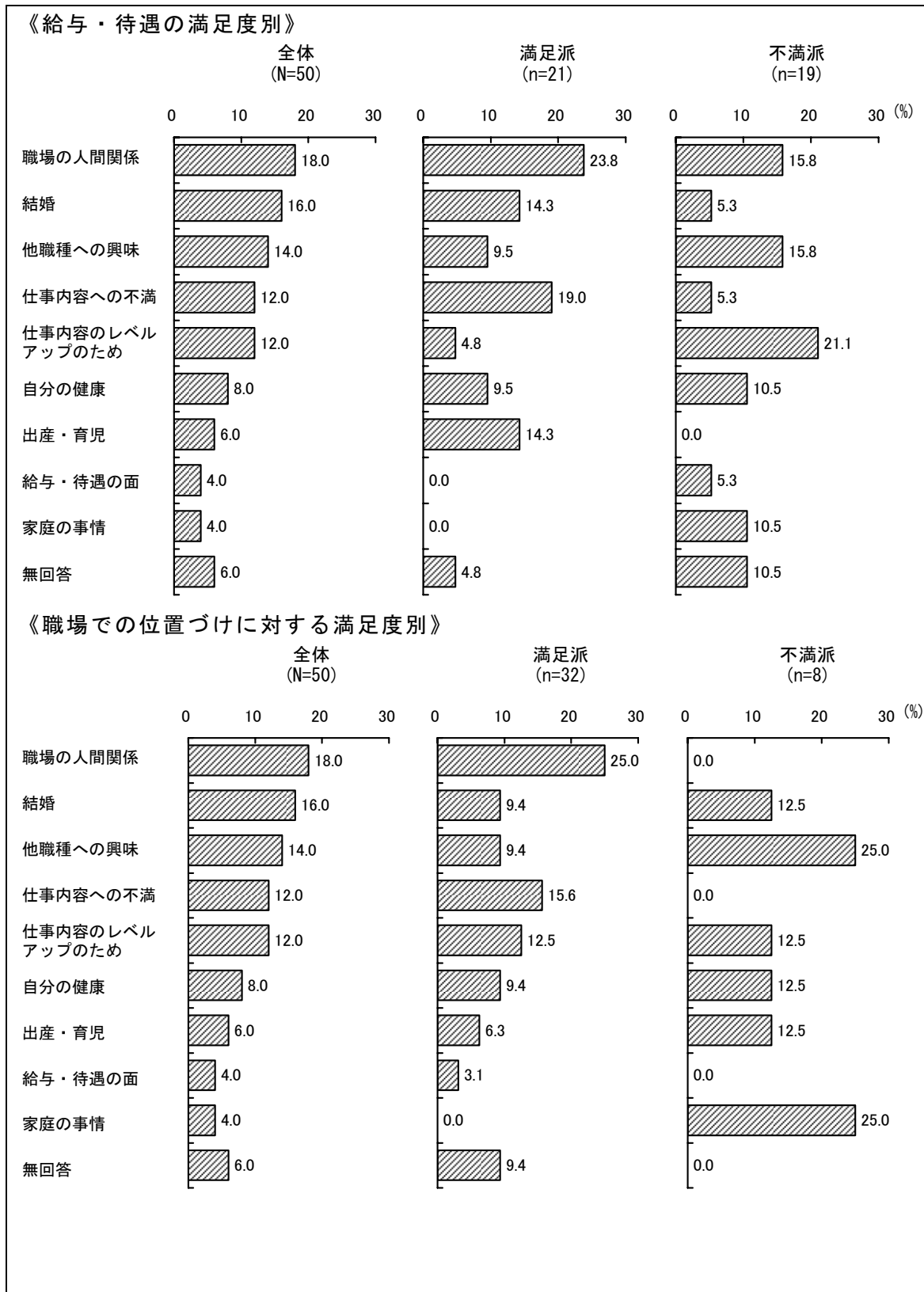
## 《職場での位置づけに対する満足度別》



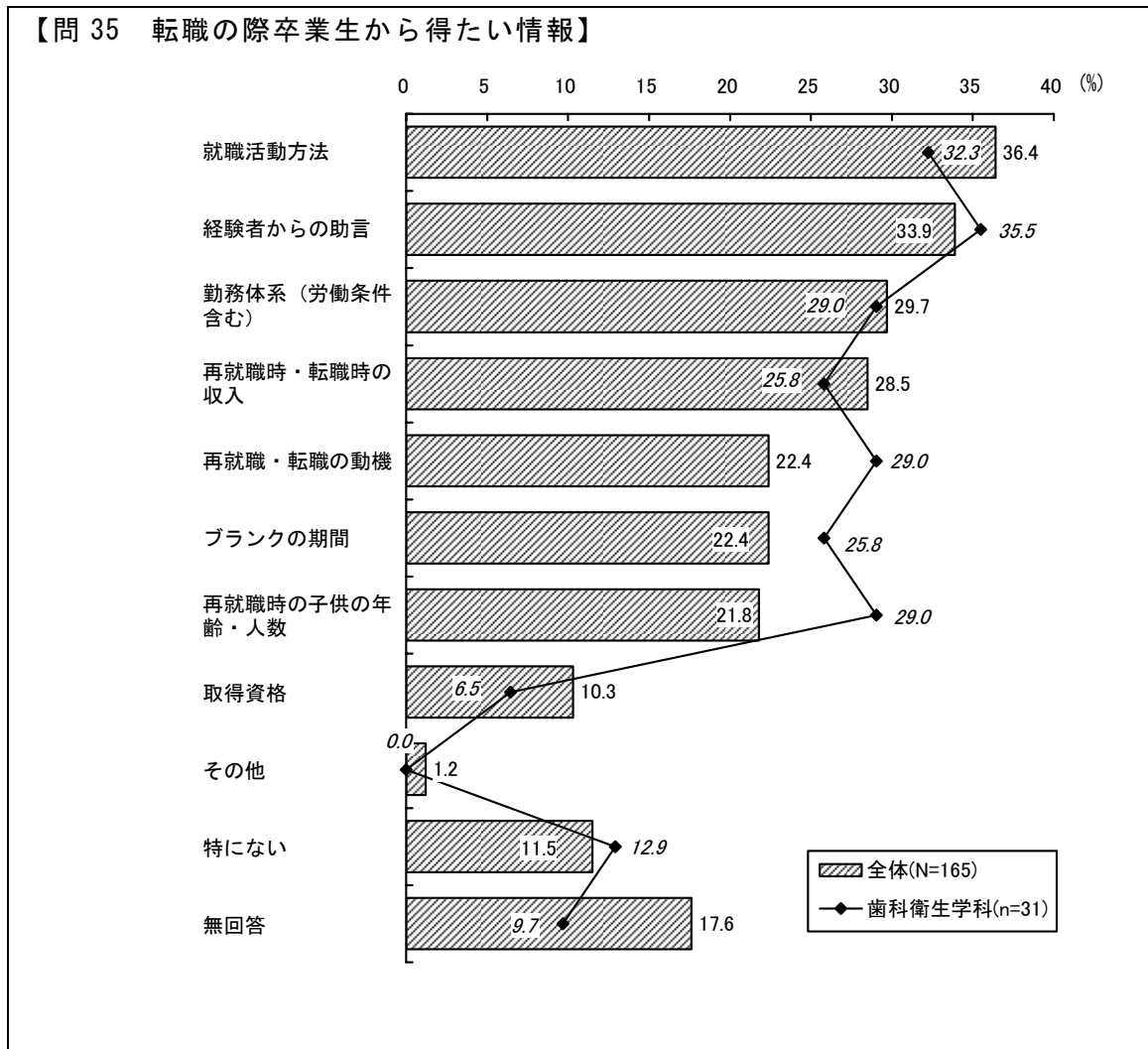
図表 33



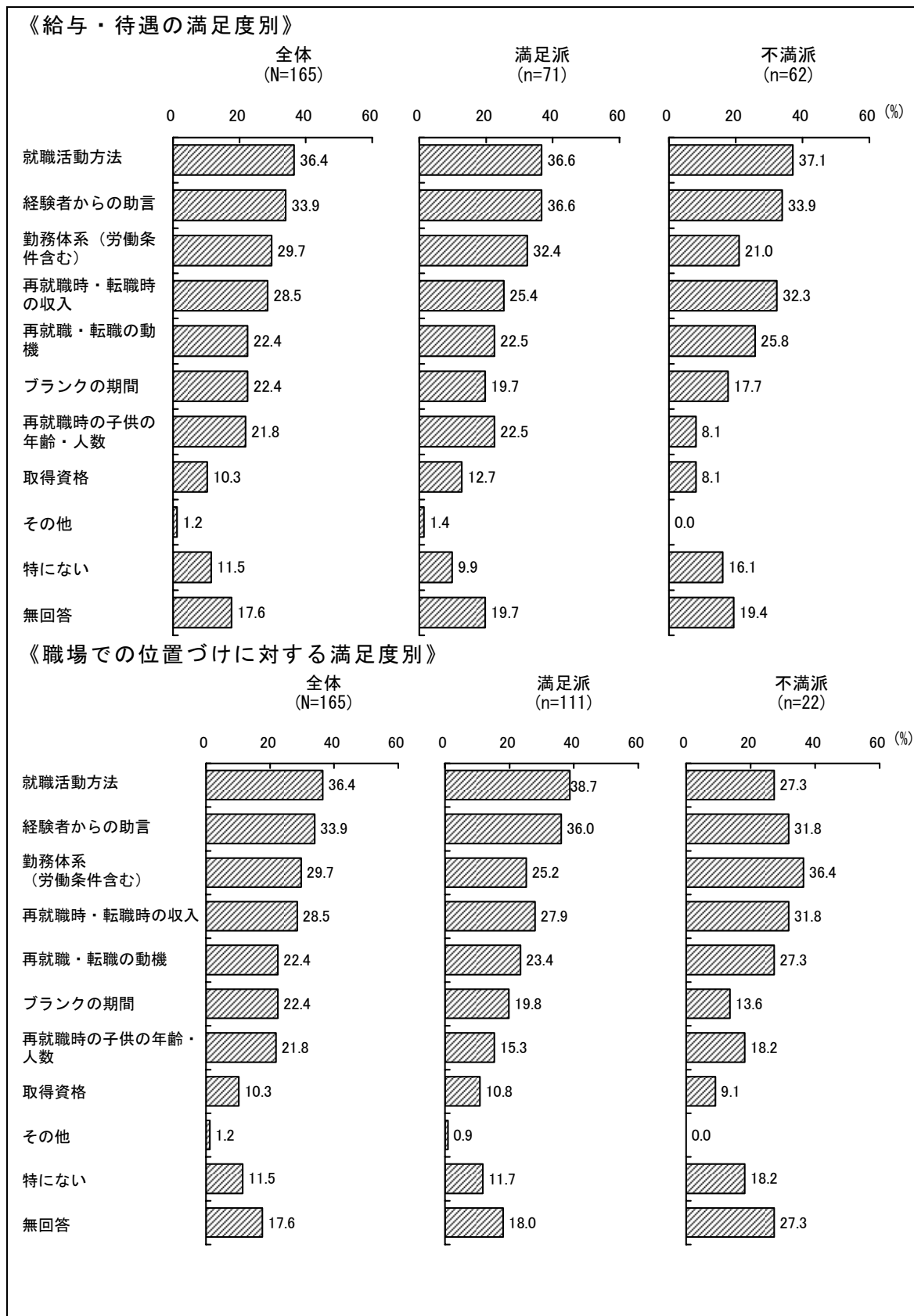
図表 34



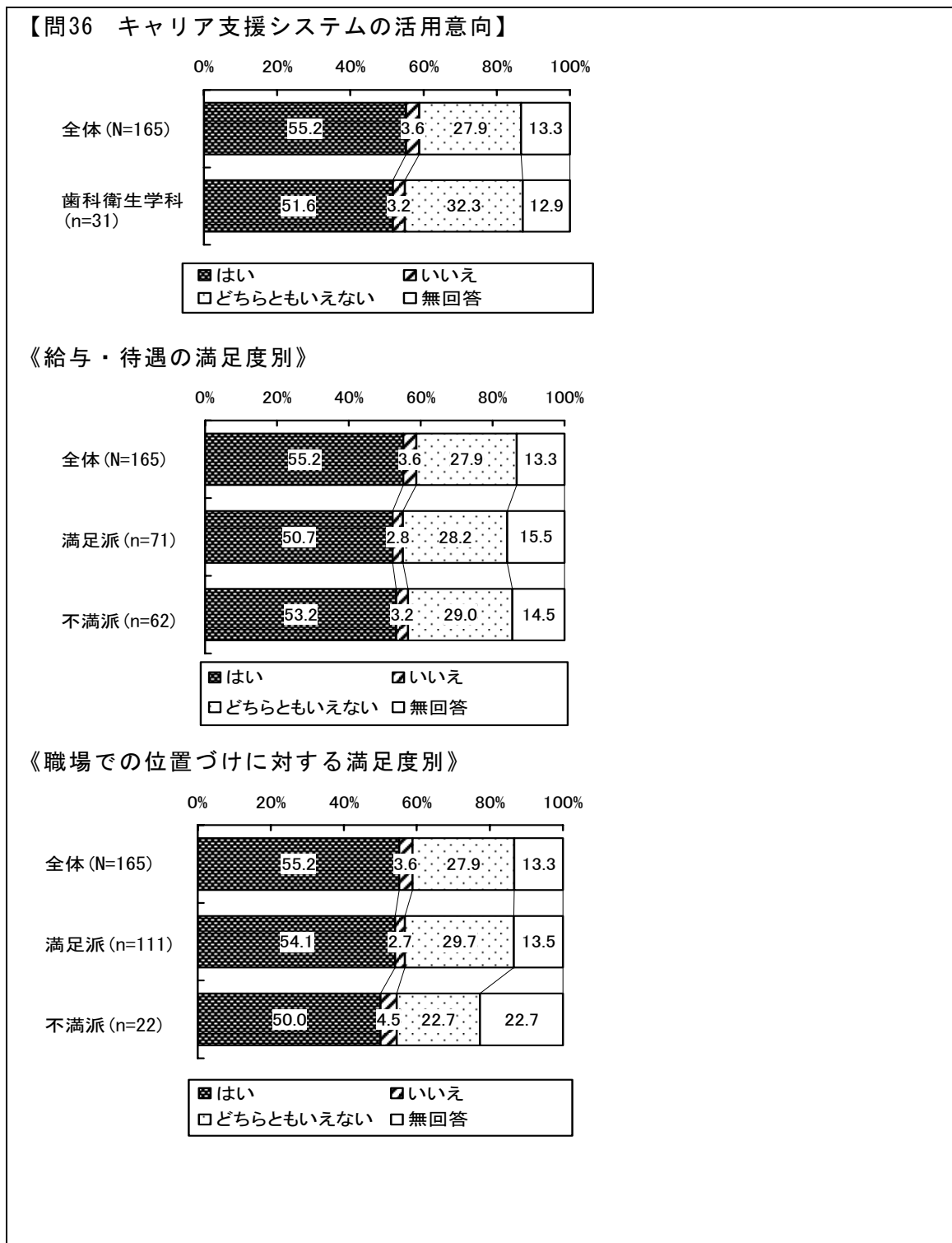
図表 35



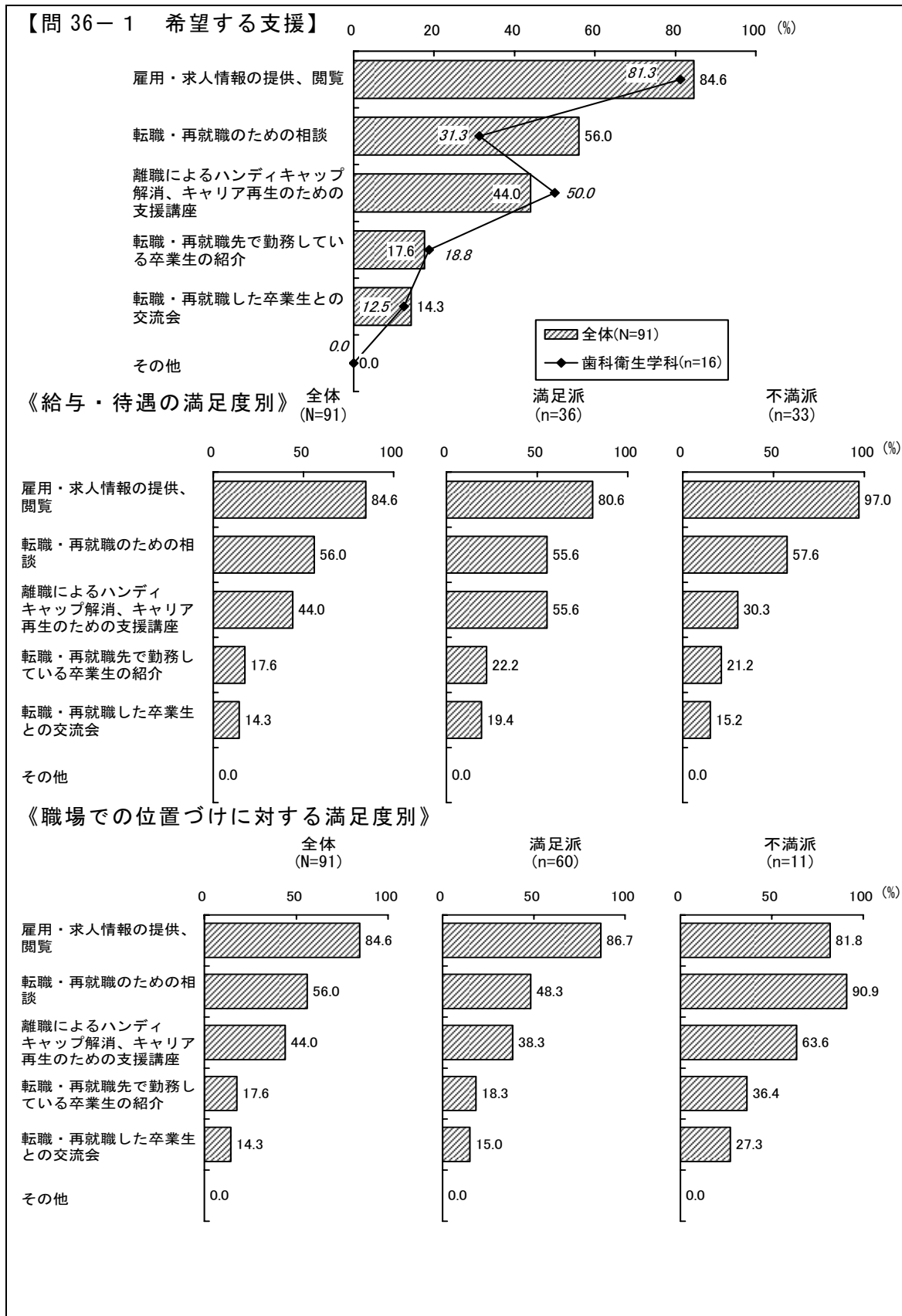
図表 36



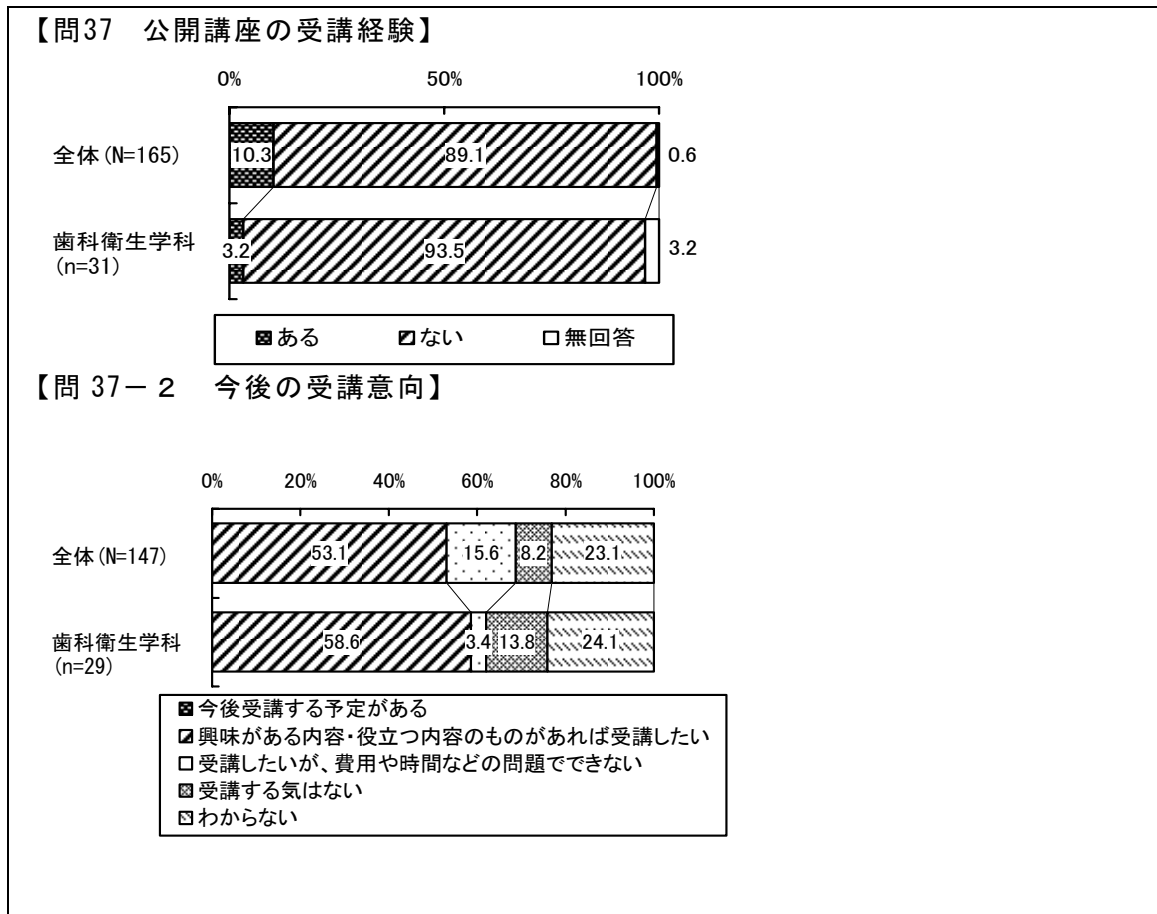
図表 37



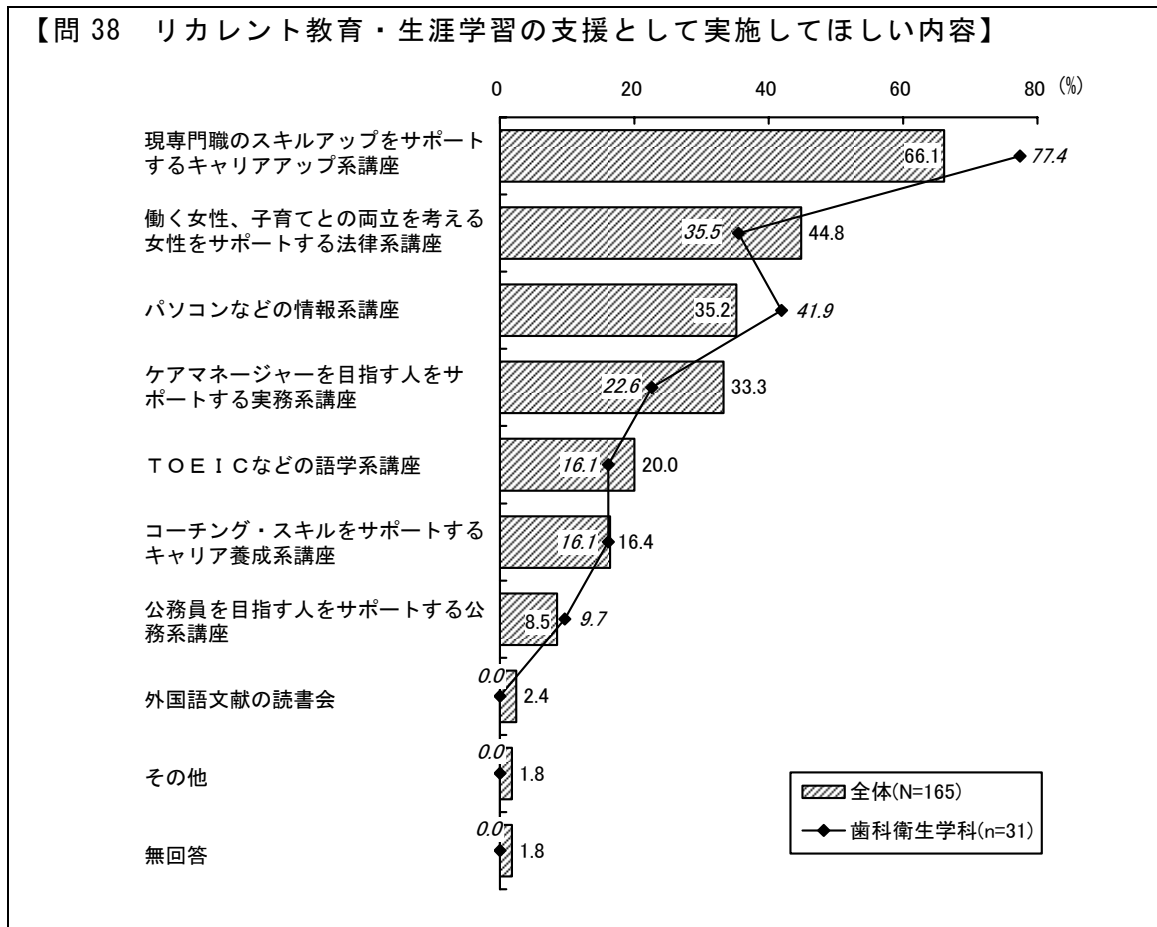
図表 38



図表 39

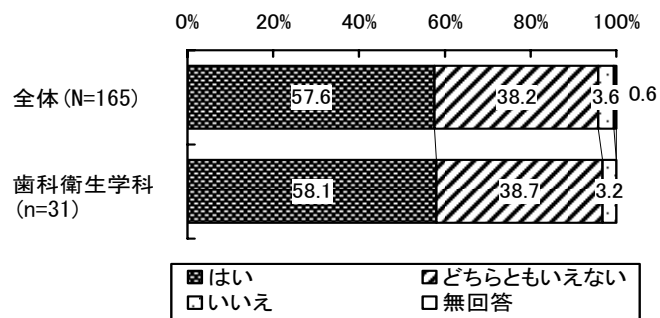


図表 40

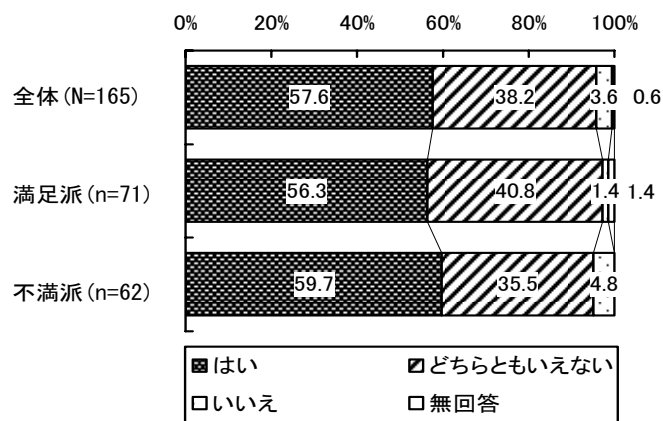


図表 41

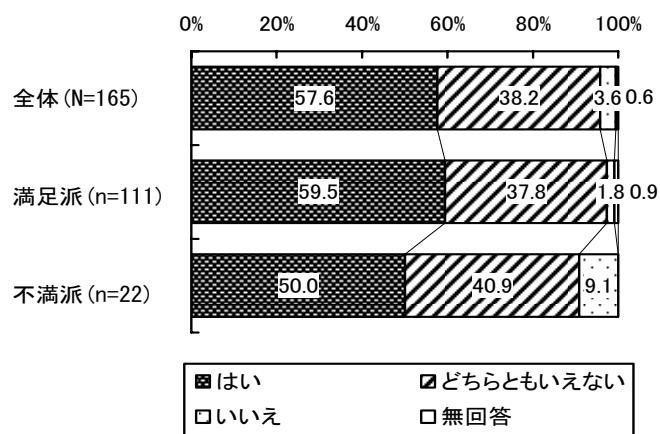
【問 39 卒業生同士のコミュニティの必要性】



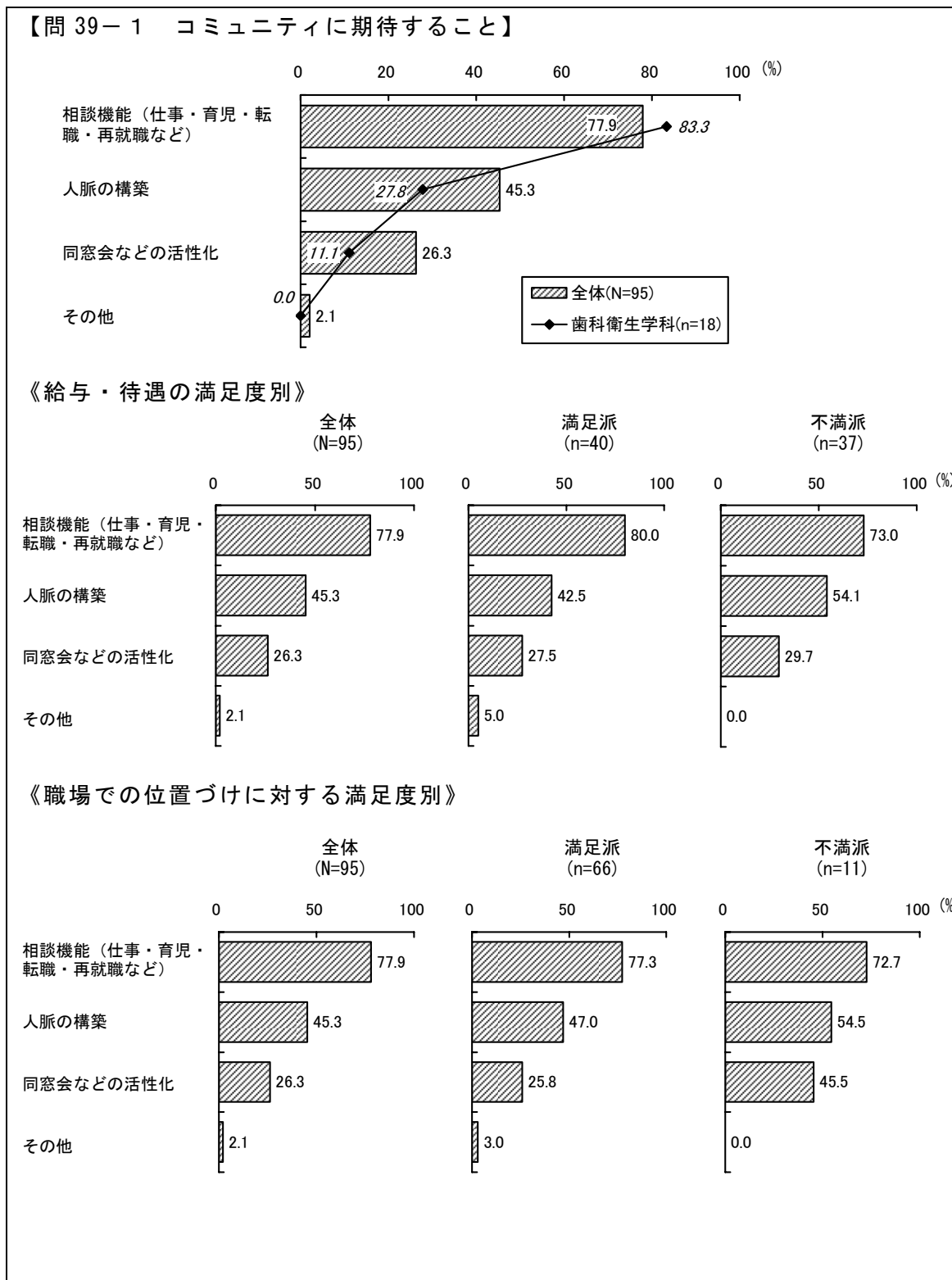
《給与・待遇の満足度別》



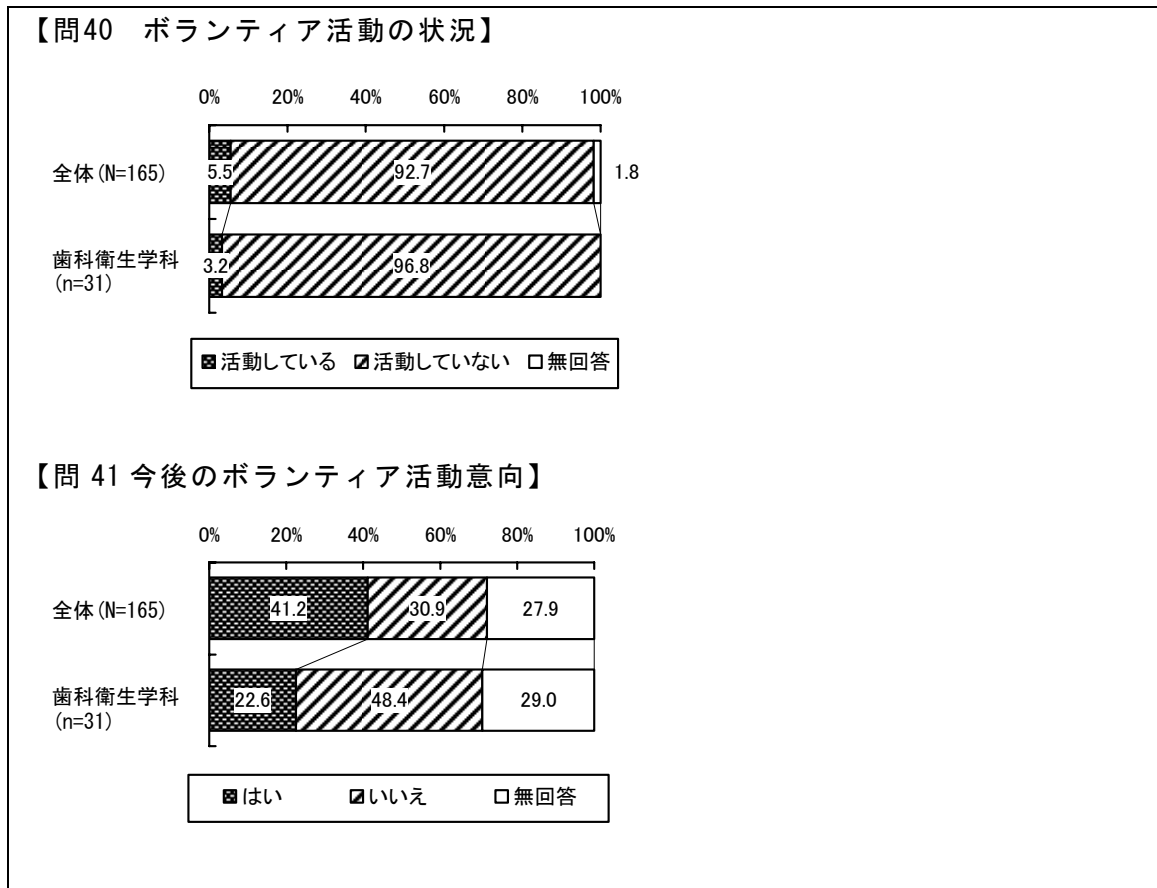
《職場での位置づけに対する満足度別》



図表 42



図表 43



図表 44

## 【考察】

＜全学科調査から＞

## 1. 本学の教育およびリカレント教育について

本学へ入学した目的、本学で得たもの、これからの本学に期待することといった設問の回答結果より、卒業生にとって本学は、「資格取得、専門知識・技術を身に付ける場」として位置づけられており、本学は今後も「医療・福祉の充実に貢献する人材の養成」を期待されている。本学の卒業生のおよそ2割は大学や専門学校等に入学しており、キャリアアップを支援するリカレント教育を望む声も高く、卒業生のキャリアアップ志向は高いといえるが、反面、大学等が行う公開講座の受講経験は1割程度とかなり低い。

以上のことから、本学は短期大学としての教養教育の外に専門的な知識・技術を身につけるための養成機関であると捉えられ、また、キャリアアップ支援はもとより、キャリアアップを目指して別の機関へステップアップするための橋渡しの役割も備えていることなどから、それらの養成機関に関する情報の提供や、そこに入学するための具体的な支援を行うことも必要ではないかと考える。よって、本学がキャリアアップ支援を行う場合は一般的に行われている公開講座では効果は薄く、画期的な手段が求められているように思われる。これらについては職種（卒業学科）

によっても意向が大きく違うことが考えられるため、職種別による分析が必要ではないかと考える。一方、幼稚園教諭免許状の取得の必要性について 76.2%もの卒業生がその必要性を感じていることなどから、今後何らかの検討をする必要があると考える。

## 2. 労働条件・福利厚生について

職場の給与・待遇に不満を感じている人は約半数にのぼり、その理由としては職務上悩んでいる事柄から、主に「低賃金」、「過労・健康不安」が考えられる。これらについては、職種（卒業学科）によっても大きく違うと考えられることから、職種別による分析が必要ではないかと考える。

労働条件を細かくみていくと、勤務日数や勤務時間についてはそれほど過酷な状況は伺えないが、有給休暇が「取れない」が 37.1%、産休・育休などの特別休暇が「ない」が 10.5%、退職金制度が「ない」が 13.5%、失業保険に「加入していない」21.1%、「わからない」27.8%、労災保険に「加入していない」14.3%、「わからない」29.3%、B型肝炎の抗体検査を「していない」が 48.9%などとなっており、職場によっては条件がよいとは言い難い場合があると考ええる。これらについては勤務先の経営形態（公的機関か個人経営か）による違いも考えられることから、経営形態別での分析も行う必要があるのではないだろうか。

また、失業保険、労災保険についての回答からは、労働条件・社会保障に関する卒業生の知識や意識が低いということも考えられる。就職指導の際に、社会保障制度下における社会保険（年金、医療保険、労働保険、介護保険）の知識を再教育することも、ひとつのキャリア支援策になると考える。

## 3. 働き方について

全体の3割が転職を経験している。うち約4分の3は再び専門職分野に就職しており、得たい情報やキャリアシステムの活用意向からも伺えるように、就職に関する情報の提供や相談を希望する声は高い。また、退職については、出産・育児、結婚を理由とするものが多い。働き方については、年齢や婚姻、子どもの有無別などによる分析により、より具体的な現状が把握できるのではないかと考えられる。

回答者の属性については20代が6割以上を占め、結婚している人が37%、子どもがいる人が約4分の1であることを考えると、今後年齢を重ねていった場合には、再就職や育児をしながらの働き方について情報提供や相談などを求める声はさらに高まるであろうと推測できる。大学における進学、就職、再就職、転職のためのキャリア支援システムのさらなる構築は大きな役割を果たすと考ええる。

### < 歯科衛生学科調査から >

#### 1. 給与・待遇の満足度クロスから

職務上悩んでいる事柄をみると、「人間関係」「自己の力量不足」「過労・健康不安」「低賃金」が4大項目であるといえる。このうち、「自己の力量不足」は、給与・待遇について満足と感じている人で高い割合を示している。一方、「過労・健康不安」、「低賃金」は給与・待遇について不満と感じている人で高い割合となっている。待遇について細かくみていくと、不満派では、1週あたりの勤務日数「5.5日以上」

が 18.0% (満足派 10.7%)、勤務時間「10 時間以上」13.1% (満足派 6.2%)、有給休暇平均支給日数 15.65 日 (満足派 20.00 日)、有給休暇の取得しやすさについて「取れない」45.8% (満足派 29.2%)、特別休暇の種類について、「夏期休」56.4% (満足派 80.6%)、「年末年始」49.1% (満足派 61.3%) となっており、労働時間が長く、休みが少ない「激務」となっている様子が伺える。こういった現状が「過労・健康不安」、大変なのに「低賃金」といった不満につながっているものと思われる。しかし、転職の主な理由をみると、「自分の健康」8.0%、「給与・待遇の面」4.0%は比較的低く、「過労・健康不安」、「低賃金」は人間関係と並んで大きな不満の原因となっているものの、転職の直接の動機とはなっていない。

## 2. 労働条件・福利厚生について

歯科衛生学科卒業生の 66.6% が給与・待遇に満足と回答しており (全体 53.4%)、歯科衛生学科卒業生の給与・待遇の満足度は高いといえる。その理由として、調査結果からは「激務でないが、賃金は悪くない」ということが読み取れる。歯科衛生学科卒業生について職務上悩んでいる事柄をみると、「低賃金」18.5% (全体 31.6%)、「過労・健康不安」11.1% (全体 33.8%) は全体と比べてかなり低く、また 1 週間の勤務日数は「5 日」が 80.0%、「4.5 日」が 8.0% となっており、88.0% で週休 2 日以上が確立されている。勤務時間は「8 時間以上 10 時間未満」が 72.0% と高いものの、「10 時間以上」と回答した人は 1 人だけであった。このように適度な労働時間と賃金から満足度は高いように思われたが、しかし実際の待遇についてひとつひとつ検証していくと、決して待遇がよいとはいえない現状がある。

就業規則の有無について、「わからない」との回答が 29.6% (全体 11.3%)、有給休暇「なし」が 18.5% (全体 6.0%)、有給休暇の平均年間支給日数 10.19 日 (全体 17.66 日)、特別休暇「なし」が 25.9% (全体 10.5%)、特別休暇の種類として、「結婚」15.8% (全体 54.7%)、「産休」26.3% (全体 76.1%)、「育休」15.8% (全体 70.1%)、退職金制度「なし」が 25.9% (全体 13.5%)、年金については「国民年金 (勤務先負担無)」が 53.8% (全体 12.6%) と、全体と比べて待遇はかなり低く、制度として確立されていないものが目立つ。これは、就業先がほとんど小規模の個人診療所 (64.0%) であることに起因していると思われるが、歯科衛生士不足を懸念するこれら雇用者には、とくに女性の社会進出が求められる昨今、歯科衛生士が他職種に劣らず働き続けることが出来るような労働環境を 1 日でも早く整備する必要があると思われる。

## 3. 働き方について

本調査における歯科衛生学科卒業生の回答者は、20 代が 74.2% と高く、未婚 77.4%、子ども無し 83.9% であった。したがって、転職の理由についても結婚や出産・育児を理由にしたものは少ないという結果であった。しかし、先に述べたように、職場の特別休暇の種類として「結婚」15.8%、「産休」26.3%、「育休」15.8% しか制度化されておらず、実際に結婚、出産する立場となった場合には、多くの場合は離職につながっていくことが予測される。

歯科衛生学科卒業生では、転職の際卒業生から得たい情報について、「再就職時の子供の年齢・人数」29.0% (全体 21.8%)、「ブランクの期間」25.8% (全体 22.4%)

などが、また、希望するキャリア支援でも「離職によるハンディキャップ解消、キャリア再生のための支援講座」50.0%（全体 44.0%）が全体と比べてやや高い割合となっているが、これは将来の人生設計として、「結婚・出産による離職後、子育てが一段落した後の再就職」を意識してのことではないかとも思われた。歯科衛生士がそのスキルを地域に貢献し、さらに継続して働き続けられるためには、雇用者側の労働環境を整備することがまずは第一であり、それと併行して本学・本学科がすべき支援は、結婚・出産等による離職者の再就職に際して、調査結果の中で卒業生がもっとも求めている「現専門職のスキルアップをサポート」が出来るようなキャリアアップ支援対策を継続的に実施していくことであると思われた。

### 【結論】

1. 本学が「キャリアアップを目指して別の機関へステップアップするための橋渡しの役割」も備えていることなどから、本学が行うキャリア支援の一環として行う公開講座は、従来のものと差別化を図り、より具体的で即戦力となり得るような内容が求められているのではないだろうか。
2. 社会保障制度や労働法、労働条件に対する卒業生の知識や意識が低い（専門性の向上を求める割に労働や生活という意味でのキャリア意識が低い）ことなどから、就職が決定し卒業する前までに、社会保障制度下における社会保険（年金、医療保険、労働保険、介護保険）についての知識を再教育する必要があると思われた。なお、この結果を受けて、今年度卒業予定の在学生に対しては、すでにキャリア支援 Day において講演会を実施した。
3. 現調査の時点では、卒業生の年齢層がかなり若い（20 代が 6 割以上、既婚者 37%、子育て中が約 4 分の 1 程度）ため明らかな数値としては現れなかったが、今後卒業生が年齢を重ねていった場合には、再就職の方法や育児をしながらの働き方についてより具体的な情報提供や相談窓口等を求める声が高まることが推察された。大学における進学、就職、再就職、転職のためのキャリア支援システムのさらなる構築は大きな役割を果たすと思われた。
4. 社会福祉学科の幼稚園教諭免許状の取得の必要性について、76.2%もの卒業生がその必要性を感じていることなどから、今後何らかの前向きな検討をする必要があるのではないかと思われた。
5. とくに歯科衛生学科については、歯科衛生士のスキルを地域に貢献し、さらに継続して働き続けられるためには、雇用者側の労働環境を整備することがまずは第一であり、それと併行して本学・本学科がすべき支援は、結婚・出産等による離職者の再就職に際して、調査結果の中で卒業生がもっとも求めている「現専門職のスキルアップをサポート」出来るようなキャリアアップ支援対策を継続的に実施していくことであると思われた。

【文献】

- 1) 鈴木温子：歯科衛生士の労働環境についての研究-卒業生就業実態調査の比較検討から-, 静岡県立大学短期大学部研究紀要, 第 18-W 号, 2004
- 2) 日本歯科衛生士会：歯科衛生士の勤務実態調査報告書, 2001
- 3) 槇田大介他：新卒歯科衛生士の採用に関する雇用者の意識調査報告, デンタルハイジーン, 第 26 巻-第 12 号 (別刷), 医歯薬出版, 2006
- 4) 浅倉むつ子：労働とジェンダーの法律学, 有斐閣, 2000
- 5) 日本労働法学会：労働者の人格と平等(第 6 巻), 有斐閣, 2000
- 6) 日本労働法学会：健康・安全と家庭生活(第 7 巻), 有斐閣, 2000
- 7) 山下泰子他：法社会学への招待(国際法・家族法・労働法・憲法を中心に), 有斐閣, 1997
- 8) 井上輝子他：女性のデータブック(第 3 版), 有斐閣, 2001
- 9) 柳井 修：キャリア発達論(青年期のキャリア形成と進路指導の展開), ナカニシヤ出版, 2001
- 10) 松岡三郎他：口語労働法, 自由国民社, 2001
- 11) 金井正元：労働基準法の解説(個別的労働関係法), 一橋出版, 1998

(2009 年 12 月 18 日受理)